

## 巻 頭 言

社会に貢献できる人材の育成を目指して

福井県立三国高等学校長 上山 康一郎

本校は、福井県の北部に位置する坂井市の丘陵地帯にある学校で、近くには九頭竜川が日本海へと注ぎ、さらにその南側には、福井県の大穀倉地帯である広大な坂井平野が広がるという豊かな自然環境に包まれています。平成30年度には創立110周年の節目を迎えました。今年度は創立113年目を迎え、伝統校としての歩みを着実に進めています。本校の校歌の歌詞は詩人三好達治の手によるもので、『心高かれ』という本校の校訓はこの校歌からとられています。来年度より、以下のようなスクールミッション・スクールポリシーを設定する予定です。

### [スクールミッション]

「紺碧の日本海と北前船の聖地三国。豊かな自然と歴史文化が息づく町。」古くから地域とともにある学校として、坂井市の協力を得ながら、豊かな文化・環境資源を活用したプロジェクト学習の実践を通して、生徒や保護者が希望する進路を実現し、地域社会に幸せや希望をもたらすことのできる人材を育成する。

### [スクールポリシー]

「心高かれ」という校訓のもと、高い志を持って自律的に行動し、次の4つの力を身につけ、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する。

【究める力】自ら問いを立て、課題に対する答えを見つけ出す

【挑む力】様々な出来事や困難に勇気と信念を持って立ち向かう

【結ぶ力】多様な人たちと協力しながら、自分の役割を果たす

【愛する力】ふるさとへの愛着や周囲の人々への敬愛の念を持って行動できる

この4つの力を身に付けるため、教科横断的学習を通して、幅広い分野の知識・視点を身に付けるとともに、地域と連携・協働しながら三国の文化やまちづくりについて学ぶ地域探究学習を深め、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む。

三国高校は、文部科学省『地域との協働による高等学校教育改革推進事業』の推進校の指定2年目を迎え、スクールミッション・スクールポリシーを形あるものにするために、地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造できる人材を育成する実践的な探究学習の取り組みを進めています。

総合的な探究の時間における各学年の取り組みを、「三高地域魅力化プロジェクト」とし、1年生では「空き家活用プロジェクト」を企画立案し、実際の空き家を使って地域住民に活用方法を紹介する活動に取り組みました。2年生では地域の様々な課題について探究し、「三高地域魅力化プロジェクト発表会」として、課題の解決方法を市議会議員および市役所職員に提言する取り組みを行いました。

また、総合的な探究の時間での地域探究学習をより深めるために、三国の地域についてより深く理解するための学校設定教科「三国地域学」を設定しています。令和3年度は地域の人材と協働しながら、三国の文化やまちづくりについて学ぶための科目「三国の文化資源探究」を開講し、地域の文化資源について様々な分野から学習を行いました。令和4年度には、理系生徒の選択科目として、「三国の環境資源探究」を開講し、地域の環境問題や食・農業について様々な内容を学ぶ予定です。

今年度もコロナ禍の中での事業となりましたが、三国高校そのものが地域の魅力のひとつとなり、地域と一体となって人を育み、地域社会とともに発展していけますよう、本事業に関係する皆様方の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。



# 「あったらいいね」をカタチにする！ ～シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる～

## 【研究開発の背景】

本校では、令和2年度からの新教育目標を「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」と定めた。これに基づき、「地域とともにある学校」として、地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成する実践的な探究学習を実施することとした。



## 【令和3年度の目標と取組状況】

- (1) 「三 高 地 域 魅 力 化 プ ロ ジ ェ ク ト」を推進  
総合探究学習においてすべての生徒が地域探究を実施
- (2) 地域協働協議会『ワクワク未来考場』の実施  
地域探究同好会を立ち上げ、空き家の「吉野家」を拠点として地域の方々との交流活動や大学と連携し、各種イベントの企画・運営
- (3) 「三 国 高 校 コ ミ ュ ニ テ ィ デ ザ イ ナ ー」の資格認定  
三 高 地 域 魅 力 化 プ ロ ジ ェ ク ト の 取 組 み 成 果 に 応 じ て 本 校 独 自 の 資 格 を 認 定
- (4) 学校設定教科「三 国 地 域 学」の開設  
「三 国 の 文 化 資 源 探 究」「三 国 の 環 境 資 源 探 究」で 地 域 を テ ー マ に し た 発 展 的 な 探 究 学 習 を 実 施 す る た め の カ リ キ ュ ラ ム 開 発 お よ び 研 究 授 業 の 実 施



1年空き家活用プロジェクト



2年地域問題解決宣言プロジェクト

## 【三 高 地 域 魅 力 化 プ ロ ジ ェ ク ト に お け る 探 究 学 習 の 主 な 流 れ】



## 【地域協働協議会「ワクワク未来考場」の取り組み】

【地域探究同好会活動】  
坂井市各地区まちづくり協議会と連携して各種のボランティアやイベントに参加

【大学と生徒の協議会】  
三国町の活性化について福井大学や福井工業大学と意見交換

## 【今年度の成果】

- 地域に対する愛着が深まる
- 多様な人々との協力
- 地域に関する発表の機会の増加

## 【来年度の課題】

- コミュニティデザイナー資格の認定方法
- 学校設定科目の充実
- 地域探究同好会等の「吉野家」活用

## ＜令和3年度地域協働プロジェクトコンソーシアム構成団体＞

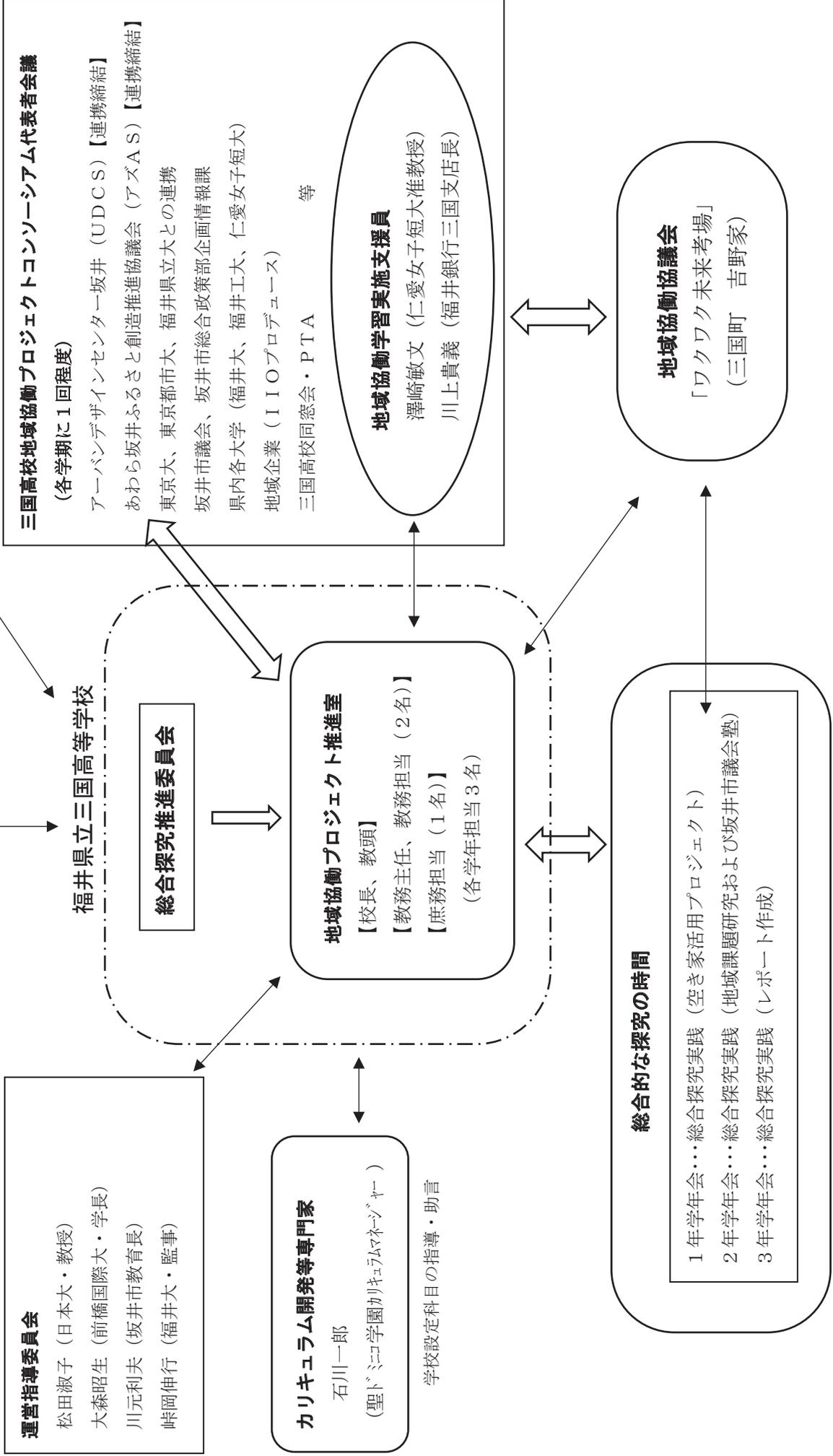
福井大学	福井県立大学	福井工業大学	福井市役所
仁愛女子短期大学	福井県立大学	アーバンデザインセンター坂井 東京大学、東京都市大学	坂井市議会
県内高校 課題解決型学習モデル開発校	坂井市議会	坂井市役所	坂井市協議会
三国高校 PTA	坂井あわら ふさと創造 推進協議会	坂井市各地区 まちづくり 協議会	地域内企業 IIOPデュース 田中化学研究所 松島水族館 石丸ハウスセンター 福井銀行他
坂井市内 各中学校	三国高校 同窓会	三国本町商店	

令和3年度4月の生徒数  
(本事業は全校生徒対象)

学科	1年	2年	3年	計
普通科	136	131	147	413

## 組織図

### 福井県教育委員会 —— 福井県教育総合研究所



# 目 次

巻頭言

目 次

第1章 研究開発の概要 . . . . . 1

第2章 三高地域魅力化プロジェクト

2-1 1年生 . . . . . 11

2-2 2年生 . . . . . 17

2-3 3年生 . . . . . 23

第3章 学校設定科目（三国の文化資源探究） . . . . . 29

第4章 地域探究同好会「地究」活動（ワクワク未来考場） . . . . . 35

第5章 各教科での活動 . . . . . 45

第6章 事業を支援する運営委員会等の報告

6-1 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅰ（総合的な探究の内容等について） . . . . . 47

6-2 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅱ（総合的な探究の評価について） . . . . . 52

6-3 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅲ（学校設定科目について） . . . . . 55

6-4 運営指導委員会 . . . . . 58

6-5 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅳ（コミュニティデザイナーについて） . . . . . 63

第7章 資料



## 第1章 研究開発の概要（文部科学省提出書類より）

### 研究開発完了報告書（抜粋）

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号  
管理機関名 福井県教育委員会  
代表者名 教育長 豊北 欽一

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和2年5月25日（契約締結日） ～ 令和4年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名 福井県立三国高等学校  
学校長名 上山 康一郎  
類型 地域魅力化型

#### 3 研究開発名

「あつたらしいね」をカタチにする！  
～ シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる ～

#### 4 研究開発概要

本校では、令和2年度からの新教育目標を「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」と定めた。これに基づき、地域との協働による高等学校教育改革推進事業においては、「地域とともにある学校」として、地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成する実践的な探究学習のためのカリキュラムを開発する。

#### 5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目  開設している ・  開設していない
- ・教育課程の特例の活用  活用している ・  活用していない

※学校設定科目は令和3年度より開設

#### 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
松田 淑子	日本大学生物資源科学部諸課程・教授	学校教育、探究学習
大森 昭生	共愛学園前橋国際大学・学長	学校教育、地域協働プログラム
川元 利夫	坂井市教育委員会・教育長	関係行政機関
峠岡 伸行	福井大学監事	企業支援、人材育成

## 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
福井大学国際地域学部	岡崎 英一（学部長）
福井大学地域創生推進本部	末 信一郎（本部長）
福井工業大学	掛下 友行（学長）
仁愛女子短期大学生活科学学科	禿 正宣（学長）
坂井市議会	古屋 信二（議長）
坂井市総合政策部企画情報課	三上 寛司（課長）
あわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS☆）	佐々木 康男（会長・あわら市長）
アーバンデザインセンター坂井（UDCS）	土井 祥子（チーフディレクター）
みくに地区まちづくり協議会	高森 重利（会長）
地域企業（IIOプロデュース株式会社 他）	伊藤 俊輔（IIO代表取締役社長）他
県外高等学校	鈴木 康之（静岡県立熱海高等学校長）
福井県内課題解決型学習モデル開発事業校	浅井 裕規（福井県立鯖江高等学校長）
坂井市内各中学校	荒川 誠（あわら市金津中学校長）
一般社団法人BEAU	小原 涼（代表理事）
三国高校同窓会	大和 久米登（同窓会長）
三国高校PTA	栗原 泰道（PTA会長）

## 8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	石川 一郎	聖トミニコ学園・カリキュラムマネージャー	雇用関係なし
地域協働学習支援員	浜田 剛	UDCSサブディレクター	雇用関係あり
地域協働学習支援員	澤崎 敏文	仁愛女子短期大学・准教授	雇用関係なし
地域協働学習支援員	中野 圭昌	福井銀行三国支店・支店長	雇用関係なし

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会							1回			

### (2) 実績の説明

- ・継続的な取組を行うための教員の人事面の配慮として、加配の計画
- ・運営指導委員会の運営および指導・助言
- ・地域人材の継続的な連携の支援および3者相互連携の強化
- ・三国高校とアーバンデザインセンター坂井（以後UDCS）の間で相互連携協定締結

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コミュニティデザイナー認定											1回	
総合探究発表会								2回	1回		1回	
学校設定科目	2回	1回	2回			1回		2回				
地域探究同好会 ワクワク未来考場	1回	2回	5回	3回	6回		4回	1回			1回	1回
教科探究学習	1回						2回					

## (2) 実績の説明

### ①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

#### (ア) コミュニティデザイナーの認定

本校では生徒が三国という地域の住民としての意識を持って、地域の未来を創造することのできる実践的な探究学習に取り組むことで、この地域の将来の地域人材として活躍するという意識を持ったコミュニティデザイナーの資格認定制度の開発に取り組んだ。今年度は、資格認定を抜本的に見直し、3年生のみを対象とし、ルーブリックを基にして認定した。

#### (イ) 総合探究発表会

総合的な探究の時間での各学年の取り組みを「三高地域魅力化プロジェクト」という名称で行っている。

1年生では6月中旬にあわら坂井ふるさと創造推進協議会（以後アズA S ☆）の協力を頂き、生徒の職業意識を深める催しを行った。また、三国町内の空き家活用プロジェクトを企画立案し、2学期末に実際の空き家を使って地域住民に活用方法を紹介する活動に取り組んだ。今年度も11月上旬にコンソーシアム団体のUDCSと・仁愛女子短期大学・福井銀行の参加をいただき、生徒の考えた空き家活用アイデアコンペを実施した。また、12月中旬には4クラスがそれぞれ1つの空き家を使い、自分たちの考えた活用方法を実践した。

2年生では地域の様々な問題について探究し、問題の解決方法を地元公共団体に提言する取り組みを行った。今年度は9、10月には坂井市役所職員からアドバイス、及びブラッシュアップ、11月には中間発表会を実施し総括のアドバイスを受けた。また、2月は坂井市議会議員に参加いただき、本番の発表会をコロナ感染症の影響で、オンラインで実施した。

3年生では2年次までのプロジェクトの成果を研究レポートにまとめた。

#### (ウ) 学校設定科目「三国の文化資源探究」について

2年生Ⅱ系列文系の2クラスの生徒が、三国地域の様々な分野の文化資源について、講演や見学、体験を通して探究学習に取り組んだ。

4月は「三国の伝統文化」の分野で、三国祭について三国神社の宮司や地域の人から講演を聞いた。6月には「三国町の食・物産」の分野で、三国の特産である三里

浜のらっきょう製造工場を見学した。雄島の海女さんからはもみわかめの加工方法を学んだ。9月には「三国の寺院・古墳・建築物等」の分野で、5班に分かれて三国の歴史的遺産である岸名家・瀧谷寺・魚志楼・大湊神社・三国突堤を見学に行った。それぞれ、地域の人から説明を受け、インタビューをした。11月には「三国の作家や芸術家」の分野で、ジャンクアートの巨匠である小野忠弘氏についての講演を聞き、実際に美術館にも訪れ、作品を鑑賞した。また、三国町出身の音楽家やナレーターを招き、三好達治の詩の鑑賞を交えて講演を聞いた。12月には「北前船交易・寄港地」の分野で、事前学習を踏まえ、地域の専門家による講演を聞き、北前船について深く学んだ。

(エ) 地域探究同好会（ワクワク未来考場の活動）

昨年度から地域との協働活動をする生徒の組織として地域探究同好会「地究」を設立し、ワクワク未来考場として活動を行っている。今年は、雄島まちづくり協議会だけでなく、みくにまちづくり協議会の協力も得て、いろいろな行事を行った。

5月には三国の伝統の三国祭の山車を曳くボランティアに参加した。6月と8月、10月は少数だが、三国町の汐見公園の芝桜の除草ボランティアに参加した。6月には本校の校歌の作詞した三好達治の草稿が見つかったということで、福井県ふるさと文学館に見学に行き学芸員から説明を受けた。7月と8月は空き家の吉野家の庭の整備を行った。吉野家をリフォームした様子を12月の1年生の空き家プロジェクトの発表会の時に地域の人に見てもらった。7月から8月にかけて昨年度も行った「海のおくり物」の高校生企画を実施しようと4回にわたって会議をしたが新型コロナウイルスの影響で中止になってしまった。10月には福井工業大学の学生と「灯りのしるべ」を実施しようとしたがこれも新型コロナウイルスの影響等で中止になった。三国町の様々な遺産を巡る歴史散策にも参加した。11月にはエッセル坂の落ち葉をきれいにするボランティアに参加した。2月には福井大学ラウンドテーブルに参加し地域探究同好会の活動についてオンラインで発表した。3月には坂井市主催の「グルメ to go コンテスト」に調理部とともに参加し、地域の特産を活かした食べ物を提供する予定である。

(オ) 教科探究学習

家庭科による「三国の伝統文化（刺し子）」の授業を、4月に3年文Ⅱ系列の服飾文化選択者に対して実施した。

10月に越前松島水族館館長による「海洋生物の調査保護」の講義授業と水族館の実地調査を3年理系生物選択者に対して実施した。

(カ) 学校訪問（先進地見学）

11月に本校の教諭2名が地域魅力化型の指定校である兵庫県の生野高校と豊岡高校を訪問し、両校の特色のある取り組みを学んだ。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

(ア) 各教科・科目

地域人材を活用した授業を各教科の授業で取り組んだ。

(イ) 三高地域魅力化プロジェクト

- ・1年次に総合的な探究の時間において、三国の地域課題を学ぶ活動を通して得た知

識を活かして、三国の空き家活用を実践する取り組みを行った。

- ・ 2年次に総合的な探究の時間において、地域の様々な課題について、コンソーシアム団体の協力を得ながら提言案をまとめ、坂井市市議会議員に提言案を説明した。

(ウ) 三国地域学

令和3年度より2年生から段階的に学校設定科目「三国地域学」を開設し、各科目との関連を深めた。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・ 令和4年度には2・3年生に学校設定科目「三国の文化資源探究」に加え、学校設定科目「三国の環境資源探究」を行い理系教科、科目を横断した探究的な学びを進める。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメント推進体制

(ア) 地域協働プロジェクト推進室

校長、教頭、教務主任および事務局6名の推進室を設置する。

(イ) コンソーシアム団体との連携

推進室が総合的な探究の時間の企画、令和3年度からの学校設定科目の企画開発、地域探究同好会の活動計画の立案および地域協働学習実施支援員と協力して、各コンソーシアム団体との連絡調整を行う。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

(ア) 三高地域魅力化プロジェクト

各学年会の教員が中心になって運営し、それぞれの事業でそれぞれのコンソーシアム団体と連携協働し、プロジェクトを推進した。

(イ) 地域探究同好会

担当教員2名で拠点となる空き家を活用し、地域住民との交流事業を推進した。

⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて

(ア) カリキュラム開発等専門家

令和3年度から実施している三国地域学の科目の一つである「三国の文化資源探究」及び令和4年度に実施する「三国の環境資源探究」について、実施方法や各教科の横断的な学習の進め方についてアドバイスを受ける。

(イ) 地域協働学習実施支援員

三高地域魅力化プロジェクトでの1年生の「空き家活用プロジェクト」や2年生の「坂井市の課題解決の提言」に関して、各コンソーシアム団体との連絡調整を行う。

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

(ア) 教員研修会

外部有識者（運営指導委員、カリキュラム開発専門家）による総合探究の意義や、

カリキュラム・マネジメントの研修会を実施した。

(イ) 職員協議会

地域協働プロジェクト推進室会議を定期的に行い、進捗状況の共有を行う。また、職員協議会で取り組みの進捗状況を報告し、取り組みの共有し課題を把握した。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

(ア) 三高地域魅力化プロジェクト

1年生は東京都市大学建築都市デザイン学部およびアーバンデザインセンター坂井（UDCS）との協働を中心に事業を推進した。

2年生は東京都市大学建築都市デザイン学部、福井大学地域創生推進本部、福井工業大学環境情報学部および坂井市役所との協働によって事業を推進した。

3年生は研究レポートをまとめるため、レポート作成の方法を学んだ。

(イ) 三国地域学

今年度から実施しており、カリキュラム開発専門家のアドバイスを受けて、地元企業や地元関係団体と連携している。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

今年度はコミュニティデザイナーの資格認定について抜本的に考え方を変え、当初の計画より目標設定シートの割合を変更したが、その認定方法について運営委員会から助言を受けた。その助言を基に、本校の教育目標である目指す人間像についてのルーブリックをつくり、3年生全員に対して1月に振り返りを実施し、その資料を基に教職員が協議をして認定を行った。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について（令和3年度より）

(ア) 三国の文化資源探究

国語科、地歴公民科、英語科、芸術科、家庭科の教員が協力し、三国の伝統・文化・文学・芸術・歴史・食文化等について探究学習を実施した。

(イ) 三国の環境資源探究

理科、数学科、体育科の教員が協力し、三国の海の保全・ごみ問題・海洋生物・エネルギー生産・浄水処理等について探究学習の準備を進めた。

⑪成果の普及方法・実績について

(ア) 研究報告書

令和3年度の研究開発実践について研究報告書を作成し、関係のコンソーシアム団体や協力者に配布する。

(イ) 三高地域魅力化プロジェクト報告書

2年生で実施した「坂井市の課題解決の提言」について、グループ別の提言書を研究レポートとしてまとめた報告書を発行する。また、生徒や関係のコンソーシアム団体の協力者に配布する。

(ウ) 広報活動

学校のホームページに様々な活動を掲載し発信した。また広報誌「三高NEWS」を発行し、地元中学校に配布した。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 高校魅力化評価システムより

高校魅力化評価システムのアンケートの「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合から見た本校の概要

①学習活動（明示的なカリキュラム）

全体としては他地域に比べて割合が高く、しっかりとした探究活動ができているものと思われる。協働性に関わる学習活動の中で、「活動、学習活動について生徒同士、大人と話し合う」という質問に関して昨年度よりも低く、他地域に比べても若干（2%程度）低い。反対に「社会性に関わる学習活動地域の魅力や資源・地域の問題の解決法について考える」という質問に関しては他地域に比べてかなり（20%程度）高い。学年で見ると今年の1年生は昨年度の1年生よりやや低く、2・3年生はそれぞれの昨年度の2・3年生より高くなっている傾向がある。

②学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）

全体として他地域よりも若干（1～3%程度）低く出ている。大人に関しても昨年度より少し（4～8%程度）低く出ている。特に大人の教職員に関して、「自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある」・「立場や役割を超えて協働する機会がある」の質問に関して、昨年度より12%程度低く出ている。コロナ感染症の影響もあるかもしれないが、教職員が閉塞感を持っている可能性がある。生徒は、社会性に関わる学習環境の「地域の人や課題にじかに触れる機会がある」「地域を自分の視点で考える機会がある」の質問に関してはかなり（9%程度）高くなっている。今年から学校設定科目「三国の文化資源探究」を実施しているが、その影響も考えられる。

③生徒の自己認識（資質・能力の主観的な認識）

全体としては昨年並みである。学年で見ると①の学習活動と同じで、今年の1年生は昨年度の1年生よりやや低く、2・3年生はそれぞれ昨年度の2・3年生より高くなっている傾向がある。主体性に関わる自己認識では1年生は低いが、3年生は高くなっている。1年生全体として、自己肯定感が低く、自信を持ってない生徒が多い様子が分かる。

④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）

全体としては昨年並みである。この項目に関しても、学年では①の学習活動、③の生徒の自己認識の項目と同じで、今年の1年生は昨年度の1年生よりやや低く、2・3年生はそれぞれ昨年度の2・3年生より高くなっている傾向がある。「地域の行事やボランティア活動に参加した」がかなり（10%程度）上昇している。学校全体として地域のボランティアに対する呼びかけの機会が増したからかもしれない。

(2) 目標設定シート

目標設定シートに関する項目については、2月に本校独自のアンケートを実施し、以下

の項目について分析を行った。

①本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

(ア) 「三国高校コミュニティデザイナー」等の認定を受けた生徒の割合を最終年次30%とする。

三国高校では引き続き、総合探究活動として、1年生は三国の空き家活用に取り組んでいる。また、2年生は坂井市の課題解決の提言をする取り組みを行っている。今年度はコミュニティデザイナーの資格認定について抜本的に考え方を変え、当初の計画より目標設定シートの割合を変更したが、その認定方法について運営指導委員会から助言を受けた。自己評価をもっと工夫して生徒自身が「自分は積極的に探究活動に取り組んできた」と考える生徒に与える資格にするべきだという助言をいただいた。その助言を基に、本校の教育目標である目指す人間像「究める・挑む・結ぶ・愛する」に関するルーブリックをつくり、3年生全員に対して1月に振り返りを実施し、その資料を教職員が協議をして3年生の中から認定を行った。新たに認定を受けた3年生は17名であった。昨年19名の生徒が認定をされているので計36名が認定を受けたことになる。割合は、3年生の生徒数に対して24%で3年度の目標20%を達成した。コミュニティデザイナーの資格認定は運営指導委員会の中でも様々な議論があった。今後、議論を深めて資格認定の条件を研究していく必要がある。

(イ) 就職志望者のうち県内に就職する生徒の割合を95%以上、進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合を80%以上とする。

就職を希望している生徒のうち、福井県で就職したいと思っている生徒と3年生で福井県の会社または地方公共団体に就職の内定をもらっている割合は、89%で3年度の目標(90%)は惜しくも達成できなかった。割合としては昨年度と全く同じである。1年生の就職希望者は10名で、そのうち福井県で就職したいと考えている生徒は8名で割合は80%である。2年生の就職希望者は17名でそのうち福井県で就職したいと思っている生徒は16名で割合は94%である。3年生の就職希望者は28名でそのうち福井県で就職が決定している生徒は25名であり、割合は89%であった。

大学・短大・専門学校などの進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合は62%で3年度の目標(70%)を達成できなかった。しかし、昨年度が63%であったので、割合としては昨年度とほぼ同じある。1年生の福井県への就職希望の割合がかなり低い。1年生の進学希望者は83名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は44名で割合は53%である。2年生の進学希望者は99名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は69名で割合は70%である。3年生の進学希望者は114名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は71名で割合は63%である。

(ウ) アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合を90%とする。

アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は88%で3年度の目標(80%)を達成している。昨年度の割合82%よりかなり高くなっている。1年生で「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は89%、2年生では85%、3年生では90%であった。

②地域人材を育成する高校としての活動指標

(ア) 三高地域魅力化プロジェクトの実施回数を最終年次20回とする。

3年度目標 15回

1、2年ともにプロジェクトを進めるにあたりコンソーシアム関係者の協力をいただくのにオンライン形式での講義やアドバイスを受ける機会が多かった。1年生ではオンライン講義2回と町歩き1回、アズAS☆とのプログラム1回、マインドマップ作成1回、アイデアコンペ大会1回、空き家活用プロジェクト本番1回を実施、2年生ではガイダンス講義1回とSDGs講義1回、先行事例研究1回、3年生から2年生への研究発表会1回、中間発表会1回、本番発表会1回を実施した。合計13回で目標を達成できなかった。

(イ) 県内外における合同発表会・研究報告会等への参加回数を最終年次8回とする。

3年度目標 6回

今年はコロナ感染症の影響で今年も訪問は計画通り実施できなかった。生徒の発表会参加が2回、教員のみが参加した他校の発表会が県内・県外を含め3回、合計5回で目標を達成できなかった。

③地域人材を育成する地域としての活動指標

(ア) 三高地域魅力化プロジェクトや地域における活動に参画する外部人材の延べ人数を最終年100人とする。

3年度目標 75人

- ・三高地域魅力化プロジェクト・・・(1年)延べ19名 (2年)延べ41名
  - ・学校設定科目・・・延べ22名
  - ・教科探究学習・・・(理科)3名(家庭科)2名
  - ・地域探究同好会・・・19名
- 合計延べ人数106名で目標を上回った。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 三国高校コミュニティデザイナーの資格認定

今後も3年生に対するルーブリックの内容を精査し、認定条件を地域協働プロジェクト推進室と外部関係者や生徒の代表が議論し、客観性があり、多くの生徒の資格認定ができる制度として構築していく必要がある。また、認定の時期を9月中にし、認定結果が就職や進学のための調査書等に反映できるようにする。

(2) 三高地域魅力化プロジェクト

1年生では11月の空き家活用プロジェクトのアイデアコンペ大会や12月の空き家活用プロジェクト本番を実施し、2年生は11月の中間発表会、2月の本番発表会で外部の人の前で発表を行った。また、地域探究同好会や家庭クラブ、有志チーム(プレゼン甲子園)なども機会を捉えて発表に臨んだ。しかし、生徒にとって発表の機会が質・量ともにまだ少ない。来年度はより多くの生徒により頻繁に人前での発表の機会を作る必要がある。

(3) 学校設定科目

4年度から「三国の文化資源探究」に加え「三国の環境資源探究」が実施される。2・3年生の多くが学校外の地域に出て体験や実験を実施する予定で、授業の時間割、教職員の配置に工夫が必要である。

(4) 地域探究同好会

同好会として様々な地域の方とのイベント事業を行うことができ、地域との交流活動が

深まってきている。しかし、活動の拠点となる空き家の「吉野家」は、今年度も修繕をすることに重点が置かれ、十分に活用できていない。来年度からは吉野家を利用した地域の人との交流事業を考えていきたい。

## 第2章 三高地域魅力化プロジェクト

### 2-1 1年生

#### (1) 事業の概要

1年生では、三国町北本町地区の空き家を活用して、地域活性化に資する活動を企画・運営する「空き家活用プロジェクト」を1年間かけて行った。UDCSの協力を得て対象地区内の空き家を4軒選定してもらい、12月14日(火)の1日お借りして、1年生4クラスがそれぞれ自分たちの活用方法を提案、実践するというものである。

#### (2) 事業目的

- ①三国町の空き家の現状を理解し、地域が抱える問題について考える契機とする。
- ②地域の課題解決のためにできることを考えたり企画・実践したりすることを通して、地域に対する思いや当事者意識を育てるとともに、地域に貢献しようとする心を育む。
- ③発想力や計画力、主体性や協調性、思考力・判断力・表現力、探究心や挑戦意欲などを養い、本校の教育目標の実現に資する。

#### (3) 事業計画(右側にⅠ～Ⅴとあるのは、事業実績紹介あり)

月 日	学 習 活 動
4月27日	講演会1 中島伸氏による地域探究活動を行う上での心構えなどの講演会
5月11日	講演会2 東京都市大学院生によるまちづくり企画の事例紹介と、空き家でイベントをする際のアドバイス
5月25日	マインドマップを利用して探究方法を学ぶ
6月 1日	三国町内探索<協力UDCS>・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ
6月 8日	探索の振り返りと課題考察
6月15日	アズAS☆×地域の担い手づくりプログラム・・・・・・・・・・Ⅱ
6月22日	2年生からの空き家活用のアドバイスとアイデア出し
6月29日	アイデア出しの続き
9月 7日	アイデアを深める
9月14日	グループでの企画立案
10月 5日	グループでの企画立案・コンペ大会準備
10月26日	コンペ大会準備
11月 2日	コンペ大会 各グループの企画を発表し合い、クラス内の優秀企画を選考。この企画が空き家活用プロジェクト本番の企画のベースとなる。・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ
11月11日	各クラスで企画のブラッシュアップ・空き家活用プロジェクト発表準備1
11月16日	空き家活用プロジェクト発表準備2
12月13日	空き家活用プロジェクト発表準備3・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅳ
12月14日	空き家活用プロジェクト本番・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅴ
1月25日	空き家活用プロジェクト振り返り

#### (4) 事業実績紹介

##### I 三国町内探索

活動内容…三国町の中心部を実際に歩いて、三国町の魅力と課題を知り、何よりも空き家が多数生まれていることを知ることで、活用プロジェクトの動機付けを行った。連携協定を結んでいるUDCSの協力を得て、チェックポイントを5つ設け、そのチェックポイントでそれぞれ担当者の説明を受けると共に、チェックポイント間での要所では担任副担任による解説を行った。三国町出身の生徒にとっても馴染みがないポイントを探索したため、生徒は興味津々で講師の話の聞いたり町家のリノベーションの例を見たりして、空き家活用へのアイデアを考えていた。



##### II アズAS☆地域の担い手づくりプログラム

活動内容…株式会社キャリアプラス様協力のもと、地域の企業の方々と話をする機会をいただいた。三国をはじめとした近隣の地域にはどのような企業があるのか、業務内容や仕事のやりがいはいかなど、なかなか知ることができないことについて、グループに分かれてインタビュー形式で質問し、それぞれの内容をまとめて発表した。生徒は地域の企業を知ることにより、社会のニーズについて考え、企画する際のアイデア出しに活用しようとする姿が見られた。また、収集した情報をまとめて発表することで、人に伝えようとするときの話し方や情報の提示の仕方など、2学期に控えているコンペ大会や空き家活用プロジェクト本番のときに生きるプレゼンテーション能力について学んだ。

生徒によっては、今回参加してくださった企業の中で、近くを通ったことがある企業もいくつかあったと思う。しかし、普段生活しているだけでは、その企業がどのようなことをしているのか、何を目的としているのか、どのようなニーズに応えるために企画を考えているのかなどは知らない。それらを知る機会を得ることができ、生徒たちも興味を持って話を聞くとともに、空き家活用の企画発案に向けてどういう企画が良いのかを考えるきっかけになっていた。



### Ⅲ 空き家活用アイデアコンペ大会

活動内容… 9月より5～6人程度のグループで考えてきた空き家活用のアイデアを11月2日に、それぞれ発表し互いに評価しあった。体育館に各班のポスターを張り出し、時間で発表する側と聞く側を交代し、自分のクラスとは別のクラスの評価を行った。生徒は自分たちで考えたアイデアをわかりやすく説明するため様々な工夫を施していた。評価する側はルーブリックに沿って、評価を行った。また、地域探究事業のコンソーシアムの方々にも来校いただき、評価していただいた。



### Ⅳ 空き家活用プロジェクト準備

活動内容… 11月のコンペで選ばれた代表班のアイデアをベースにブラッシュアップを行ってクラスの空き家活用企画を固めていった。クラスの他の班のアイデアをミックスするなど、様々な形で深め広げていった。アイデアが固まった後はクラスで役割分担を行い、空き家本番の準備に入った。内装・外装・広報・資料作成・体験活動担当などに分かれ、それぞれで準備を進めていった。準備の中で地域の方々の協力を得ることもあり、生徒たちにとっても外部の方々と交流するよい機会となった。

また、広報の一環としてポスターを作成し、付近の中学校と公共施設、えちぜん鉄道の各駅に貼らせていただいた。えちぜん鉄道三国駅には、大判のポスターを貼ったパネルを設置し、三国駅を利用する方への周知に努めた。



## V 空き家活用プロジェクト本番

(ア) 活動内容… 11月2日のコンペ以来各クラスでアイデアを一本化し、各クラスとも物品購入や地域の方々からの協力を受け、準備を行ってきた。UDCSから空き家を4軒選定してもらい、クラスごとに割り当てた。11月下旬に広報活動が本格化、12月上旬に入ってから最終準備に入り、当日を迎えた。当日は天候にも恵まれ10時から15時まで生徒が交代で店番をする中、地域の方々、教職員、地元の幼保園児や小学生、三国高校の上級生等が多数来場し、盛況となった。

### (イ) 各クラスの企画内容

1組	<p><b>MARINE CRAFT</b></p> <p>企画内容：三国のサンセットビーチで採取した貝殻を活用し、来場者に写真立てやネックレス、ブレスレットなどを作成してもらう企画をした。三国の海について知ってもらうとともに、きれいな海を保つための働きかけとなった。</p>
2組	<p><b>空き家×脱出ゲーム</b></p> <p>企画内容：三国の町が今後どうなっていくのかをテーマに、データを示しつつクイズ形式で脱出ゲームを実施した。また、東尋坊や雄島など様々な三国の名所について、模型を作成し紹介して、来場者が三国の良いところや課題を改めて考えるきっかけとなった。</p>
3組	<p><b>FILM～写真展～</b></p> <p>企画内容：三国町内の写真を多く掲載し、景色・風景から三国の良さを知ってもらうように写真展の企画をした。訪れた方には、飾られている写真がどこのものかなども併せて紹介し、三国町の案内にも活用した。</p>
4組	<p><b>射的ング～狙われた映え写真を打て！～</b></p> <p>企画内容：祭でよく見る射的をモチーフに、三国町の観光地の写真を的として飾り、当たった写真と同じ風景を撮影して戻ってきたらそれに応じた景品がもらえる企画を実施した。子どもから大人まで幅広く楽しめる企画となった。</p>



MARINE CRAFT



空き家×脱出ゲーム



FILM～写真展～



射的ング～狙われた映え写真を打て！～

#### (ウ)生徒の感想

- ・この活動を通して、私は空き家の活用法に加え地域の人たちとの関わりを持つことは大切だと思いました。
- ・企画の目的は、地元を離れる人を減らして将来も残っていてもらえるように三国に住んでいる方々にもう一度三国について考える機会をつくらうというものでした。当日はとても人気で用意していた宝物の飴がなくなり買い出しに行くほどでした。みんな忙しかっただけでも楽しかったです。
- ・当日は、思っていた以上に時間がなく開始ギリギリまで会場準備になり焦りましたが、とてもうまくいったので良かったです。
- ・様々な世代の人たちが来てくれて、射的をして、写真を撮って笑って帰ってくる。楽しむと同時に三国の魅力を伝えられたと思います。

#### (エ) 活動の総括と今後に向けて

空き家活用プロジェクトは、今回で4年目になり、中には中学生の時に空き家活用プロジェクトを来場者として体験した生徒もいた。昨年度の企画は体験を重視したものが多く、様々なアイデアを持ち寄って行った企画であった。今年度は昨年度の企画や中学時代の体験を参考に、さらなるブラッシュアップを試みた企画であった。その中で、生徒たちから出てきたアイ

ディアの根幹には、「三国の良さ」をアピールする意志がより強く表れたものであった。

来年度に向けて、すでにある良さをアピールすることに加えて、さらに良くするために何が必要かという視点からもアイデアを出すように、今回の経験を生かしてほしいと考えている。

## 2-2 2年生

### (1) 事業の概要

2年生では、1年次に行った三国北本町地区の空き家問題解決に向けたプロジェクト学習のサイクルを発展させ、三国地区や坂井市、福井県と地域を広げ、地域の課題解決に向け課題発見のためのプロジェクト学習を行った。各生徒によるグループでの地域の課題解決に向けたアイデアは提言として、令和4年2月1日に行った「三高地域魅力化プロジェクト発表会」にて坂井市議会議員に向けてプレゼンテーションを行い、その後、提言書を作成した。

### (2) 事業目的

- ①地域に関心を持ち、地域を愛する気持ちを育てる。
- ②先行研究や実地調査、インタビュー、データ分析、アンケートなどを通して、課題の原因を分析し、課題を解決する自分たちなりのアイデアを創造できるようになる。
- ③グループ活動や坂井市役所の職員をはじめとする他者との関係の中で、互いに合意形成を図り、協働する力を育てる。

### (3) 事業計画（右側にⅠ～Ⅶとあるのは、事業実績紹介あり）

月 日	学 習 活 動
4月13日	ガイダンス
4月20日	地域を学ぶ(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ 三国高校同窓会会長 大和 久米登 氏による講演
4月27日	地域を学ぶ(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ SDGsについて学ぶ。
5月11日	地域を学ぶ(3)（先行事例研究(1)） 前回選んだSDGsの項目にあう、日本各地の先行事例調査。稼げるまちづくり取組事例集『地域のチャレンジ100』（内閣府地方創生推進事務局）から興味のある事例を選び、まとめる。
5月25日	地域を学ぶ(4)（先行事例研究(2)） 前回の続きを行う。
6月 1日	地域を学ぶ(5)（先行事例研究発表会） 前回まで調べた先行事例研究をまとめ、グループ内で発表する。
6月 8日	個人テーマ設定(1) 8項目に分かれ、坂井市の課題について調べる。
6月15日	個人テーマ設定(2) 2つ目の項目についても坂井市の課題を調べる。
6月22日	個人の提言アイデア設定(1) 各自が発見した坂井市の課題について、解決策を考える。
6月29日	個人の提言アイデア設定(2) 各自が発見した坂井市の課題について、解決策を考える。
6月15日	個人テーマ設定(3) 2つ目の項目についても坂井市の課題を調べる。
7月13日	3年生より昨年度の提言のプレゼンテーションを受ける。・・・・・・・・Ⅲ
7月26日	個人の提言のブラッシュアップ
夏季休暇中	個人の提言の教員チェック
9月7日	グループ結成と、グループとしての課題・解決策設定
9月14日	グループでの課題・解決策設定

9月28日	市役所の職員への提言プレゼン及び、アドバイスを受ける。・・・IV
10月5日	坂井市役所の職員とともに、提言のブラッシュアップ・・・IV
10月26日	グループ別提言の完成
11月2日	提言のプレゼン作成(1)
11月9日	提言のプレゼン作成(2)
11月16日	三高地域魅力化プロジェクト中間発表会準備
11月30日	三高地域魅力化プロジェクト中間発表会・・・V
12月13日	提言プレゼンテーションブラッシュアップ
1月25日	三高地域魅力化プロジェクト発表会準備
2月1日	三高地域魅力化プロジェクト発表会・・・VI
2月8日	地域探究レポート作成(1)・・・VII
2月10日	地域探究レポート作成(2)
2月22日	進路探究(1)
3月22日	進路探究(2)

#### (4) 事業実績紹介

##### I 地域を学ぶ(1)

活動内容…三国高校同窓会会長 大和 久米登 氏による講演。地域についての知識が不足しているという昨年度の反省からプロジェクト学習の課題設定の前に地域の歴史を学んだ。大和氏は一般社団法人三國會所の理事を務めており、三国の地域の歴史に詳しい。三国の歴史の奥深さを平易な言葉で分かりやすく伝えていただいた。



##### II 地域を学ぶ(2)『SDGsについて知る』

活動内容…地域の課題を調べていく前に地球的な課題であるSDGsについて理解を深めた。ユニセフのSDGsの紹介サイトには、SDGsごとの紹介や、具体的な対策についても紹介されている。各自でテーマを割り当て、調査をした後にグループで互いに発表した。



### Ⅲ 3年生の提言についてのプレゼンテーション

活動内容…昨年度坂井市の課題を調べ、解決策の提言を行った現3年生のうち、優れた4つの班に2年生に向けてプレゼンを実施してもらった。3年生の発表を見る中で、生徒たちは今後の活動に見通しが持てたと共に、どんな風に課題を設定し、アイデアを考えるべきかと考えていた。



### Ⅳ 市役所の職員への提言プレゼン及び、アドバイスを受ける。(9月28日、10月5日)

活動内容…坂井市役所総合政策課の若手から中堅にあたる職員10名の方に現段階での生徒の課題設定や解決策のアイデアの発表を行った。まだ原稿段階であったが発表練習も兼ねて、事前に教員との数回の練習を行った上での活動であった。2時間発表を聞いていただき、次の1時間で、生徒たちに直接アドバイスシートを渡しアドバイスを行っていただいた。特に課題設定のためのデータ不足や、解決策の実現可能性、すでに坂井市にある似た制度の活用提案等具体的なアドバイスをいただいた。



坂井市役所の方へ

アドバイスシート

目的:生徒たちの課題やアイデアは不十分です。ぜひプレゼンを聞いて、足りない部分をご指摘ください。来週の特に実際にアドバイスを受けて改善に入るので、改善の仕方も教えていただけるとありがたいです。このシートはこのまま生徒に提示します。

〇メモ

班 1組5班

タイトル: ユニバ・ハッピー・ショップ

課題や坂井市がかかえる背景など  
買い物客減少(高齢者)

解決策  
空き家、空き店舗活用、手配り改善  
→ 空き家活用、空き店舗活用

〇アドバイス・不十分点についてコメント

・ユニバ 店舗面積が  
合計 33%  
→ この割合は(今のデータが)2回 高すぎたので(聞かずにしまっしー)

・ユニバ に行くことが困難な高齢者にとっても  
空き家や 最寄り駅付近に近づくのも大げだと感じるのと  
買い物客も 重視と考えるのが良いと思います。

↓  
坂井市は今年8月に日本郵政と包括連携協定を締結しています。  
その範囲の中で「土地地権の推進、フードドライブ、フードバンクに関する  
活動」についても盛り込まれているので、郵便局と連携するのアイデアを  
検討するのもアリではないでしょうか。

Q 足りない部分を補うために必要な作業・行動はなんですか？(資料のある場所なども教えていただけるとありがたいです)

・買い物客の増加が促りにくいため、高齢者のためのサービスや、ユニバへの  
(お買物)について見てみると、どの地域に需要があるかがポイントと見えます

H27年度「ユニバ」の取り組みの進捗の報告



## V 中間発表

活動内容…各グループがそれぞれの提言について、テーマを設定した背景と現状分析、自分たちの主張、目指す地域や環境等の将来の姿、今後の課題についてこれまでいただいたアドバイスも踏まえてプレゼンテーションを作成し発表した。9月、10月に来ていただいた坂井市役所職員の方を再度アドバイザーとして迎えた。発表後最後のアドバイスをいただいた。



## VI 三高地域魅力化プロジェクト発表会

活動内容…各グループがそれぞれの提言について、テーマを設定した背景と現状分析、自分たちの主張、目指す地域や環境等の将来の姿、今後の課題について発表した。坂井市議会議員2名を各会場のアドバイザーとして迎えた。今回は、コロナ感染拡大を受け、ZOOMのブレイクアウトルームを使い、各会場と議員2名のタブレットをオンラインでつなぎ発表を実施した。対面でないことによる問題点や不満点も多くあったが、発表形式としても実践事業としても多いに参考となった。



提言一覧

	テーマ	タイトル		テーマ	タイトル
1	医療福祉	妊婦に優しい街	18	観光地	三里浜応援プロジェクト
2	公共事業	高齢者のための交通機関	19	医療福祉	廃校した小学校を介護施設へ
3	人口	人口を増やそうproject ～extramission 転入者を増やす～	20	医療福祉	介護施設・医療従事者マシマシ計画
4	観光地	海ゴミゼロプロジェクト ～九ヵ年プログラム～	21	地理(環境)	僕らのクリーンプロジェクト
5	特産品	坂井市の宿泊客数増やそっさ！ ～坂井市革命☆～	22	地理(環境)	冬の危険性！雪害に備えよう
6	産業	農業大国 坂井市	23	雇用仕事	案外知らない魅力ある三国企業
7	雇用・仕事	坂井市RICHE化 計画	24	雇用仕事	働きたいところで働くために～ミスマッチを防ぐ～
8	地理	シニアハッピーショッピング	25	地理(環境)	空き家が変わる。三国も変わる。 ～change vacant houses better～
9	特産品	サンセットビーチのごみ拾い改善	26	産業	集まれ！後継ぎ！！
10	特産品	イベントに並ぶ三国の特産物の売り上げの少なさ	27	特産品	違う顔も見せられます！
11	特産品	坂井市の特産品のブランド力を向上させよう	28	人口	激録 坂井市密着24時！！
12	人口	坂井市雇用問題	29	人口	～三国に恋～Let's spend time together in Mikuni
13	医療福祉	地域の輪を作ろう ～高齢者が笑顔で健康に過ごすために～	30	公共事業	学校へ行こう！
14	観光地	二人っ子推進プロジェクト	31	観光地	キャンプに行CANかー？
15	公共事業	公共交通革命	32	雇用仕事	未来創作プロジェクト
16	産業	らっきょうを全国に！！	33	医療福祉	見つけよう、新しい老後の生活
17	産業	Fishing industry ～One for all. All for one～			

## Ⅶ レポート作成

活動内容…これまでの提言をレポートにまとめた（A4用紙2枚）。志望理由書や、小論文を意識して文章の構成やデータの提示の方法などを理解してからレポート作成に入った。このレポート集は来年度の2年生全員に配布する。



### （5）2年次の活動の総括と反省

今年度の目標は①課題設定の方法の確立、②外部アドバイザーとの長期間の関わり、③発表内容の徹底した吟味、④発表の技術の向上であった。達成できたもの、未達のものそれぞれあるが、総括をしたい。

課題設定のやり方については、今回はSDGsに着目し、内閣府のHPも参考にして世界全体・日本各地での課題や先行事例を学んだ。ただ生徒たちが実際に課題設定をする際に参考にしている様子はあまり見られなかった。来年度に向けての反省として今後も考えていきたい。一方でピラミッドチャートを使い課題の精選を行うことができ、今後のワークシートの例として残していきたい。

外部との長期間の関わりについては、大きく進歩できたと考えている。これまでは最終発表でコメントをもらうだけであった坂井市役所職員にアイデアを練る段階から生徒と関わっていただいた。行政の専門家としての知識や考え方を生徒が知ることができ、アイデアをブラッシュアップする際に大いに参考になった。坂井市役所職員にも生徒との関わりが仕事面で生かされたようで好評であった。来年度も継続できたらと考えている。

発表内容と発表のやり方については、各担任が協力的であったため丁寧な指導が実施できた。放課後に生徒を残し、何度もアイデアを吟味させたり、違う方向での気づきを与えたりした。市役所の方や、最終発表でアドバイザーを務めた坂井市議員も「非常に発表内容がよくなった」とコメントを頂いている。昨年度の大きな課題として発表の技術向上があった。共有したルールとして、声の大きさ、しゃべるスピード、原稿を見ないように発表することなどを徹底した。本番では多くの生徒が原稿を見ずに相手に向けて発表を行う様子が見られ、発表の技術面は大きく向上したと言える。

今年度から2年文系Ⅱ系列の生徒は学校設定科目の「三国の文化資源探究」という科目を受講している。この授業では三国の魅力的な文化資源について1年間をかけて学んでいる。ここで学んだ内容を地域課題の解決策に生かそうとしている様子も見られた。

## 2-3 3年生

### (1) 事業の概要

3年生では、1、2年生で行ってきた探究活動について振り返り、レポートにまとめる活動を中心に行った。また、3年間の振り返りとして、本校の目指す生徒像を基にしたコミュニティデザイナーについての自己評価を、ループリックを用いて行った。その他、卒業学年として進路の実現に向けた活動を多く行った。具体的には、志望理由書や自己PR文を考えたり、新聞記事を利用して要約や発表を行ったりして、知識を深め、各自の思考力・判断力・表現力を養った。

### (2) 事業目的

教科横断的・総合的な学習や探究的な学習を通じて自ら課題を見つけ、その課題を他者と協働して解決する能力を育成するとともに、自己の在り方生き方について考察する。

### (3) 事業計画（右側にⅠ・Ⅱとあるのは、事業実績紹介あり）

月日	学 習 活 動
4月13日	ガイダンス
4月20日	進路探究学習(1) 志望理由書・自己PR文(1)
4月27日	進路探究学習(2) 志望理由書・自己PR文(2)
5月11日	進路探究学習(3) 志望理由書・自己PR文(3)
5月25日	進路探究学習(4) 志望理由書・自己PR文(4)
6月 1日	課題研究(1) 探究活動レポートづくり(1)
6月 8日	課題研究(2) 探究活動レポートづくり(2)
6月15日	課題研究(3) 探究活動レポートづくり(3)
6月22日	課題研究(4) 探究活動レポートづくり(4)
6月29日	課題研究(5) 探究活動レポート発表・・・・・・・・・・Ⅰ
7月13日	テーマ別小論文(1)
8月	進路探究学習(5) 大学・企業等見学
9月 1日	学校生活(1) 学校祭運営(1)
9月 3日	学校生活(2) 学校祭運営(2)
9月 7日	学校生活(3) 学校祭振り返り
9月14日	進路探究学習(6) 自己PR文
9月28日	講演会 年金講話
10月 5日	進路探究学習(7) 情報整理(1)
10月26日	進路探究学習(8) 情報整理(2)
11月 2日	進路探究学習(9) 情報整理(3)
11月 9日	進路探究学習(10) 情報整理(4)
11月16日	進路探究学習(11) 情報整理(5)
11月30日	進路探究学習(12) 情報整理(6)
1月24日	学校生活(4) 振り返り・・・・・・・・・・Ⅱ

#### (4) 事業実績紹介

##### I 探究活動レポートづくり

(ア) 活動内容… 1、2年生で行ってきた探究活動やそこから得た成長について振り返り、文章にまとめた。またお互いの探究活動レポートを読み合い、感想を伝え合い、レポートの改善に取り組んだ。

生徒たちが自身の活動や成長を振り返ったことで、改めて地域の課題を考えたり、課題の解決方法を個人の視点と地域の視点から考えたりしたと同時に、学んだことを今後どう役立てていくべきかを深く考察した。また、生徒たちは自己の成長を肯定的に捉えることができた。さらに、お互いのレポートの読み合いを通して、より多くの視点から自信を振り返ることができるようになった。



(イ) ある生徒の探究活動レポートの一部抜粋

##### ○1・2年の経験を踏まえて、自分が今感じている地域の課題と解決策

私が感じている地域課題は3つある。1つ目は空き家の再認識が不十分であることだ。三国の景観の保護や、倒壊を防ぐために、現在空き家として認識されていない家や、持ち主が不明である空き家を再確認しなければならない。2つ目は空き家の利用手順が複雑であることだ。空き家を利用したくても問い合わせ先や手続き方法がわからず、空き家と利用希望者側がうまく結びついていないことが大きな課題である。それを解決するために、利用可能である空き家の場所や間取りをまとめたホームページを作成することを個人のレポートで提案した。3つ目は子育て世代の体力的、経済的、精神的な負担が大きく、子どもは好きでも産むことができないということだ。三国では少子高齢化が進んでいるという現状があるが、それは福井から県外へ流出する人口の増加と子育て世代の負担によるものだと考えた。アンケートでは、子どもを預ける施設や環境(実家)があると答えた方が大多数であったが、仕事と育児の両立が難しいと感じる方や、子育てに体力的、精神的負担を感じる方も大多数であった。これは息抜きをするために子どもを預けることができる環境でないということが感じられた。そのため、空き家を使った短時間(息抜きのための)子どもの預かり施設を運営すると良いと考えた。

##### ○1・2年のどのような経験から、どのような成長があったか

私が成長できたと思うことは主に3つある。1つ目はインターネットのみでなく、聞き込み調査やアンケートを通して、自分の求めている材料を集める力や機動力が身についた。2つ目はプレゼンテーションの原稿を作る際に、自分の提案を、根拠や政策を実行した際のメリットを示すことで、より説得力のある文章が書けるようになったことだ。3つ目は自分が提案する政策はSDGsの何番に当てはまるのか、3Rに結びついているのかなどと考えることができるようになったことだ。地域住民の意見のみでなく環境保全の考えに即した考えを持つことができるようになった。

##### ○前問の内容をどのように将来(進学先、就職先、プライベート)に活かすか

私は大学で地域経済学を学び、地域の持つそれぞれの悩みを勉強し、地域住民の意見を取り入れて、地域の強みや希望を活かしたまちづくりに携わる仕事をしたいと思っている。現在、総合学習で知っただけでも地域課題は多かった。しかし、空き家が多いことのように地域の問題点が地域にとってプラスになりそうだった点があったので、専門的な知識をつけて研究していきたい。

## ○レポート読み合いの振り返り

クラスメイトのレポートを読んで、自分にはなかった視点のものが主に2つあった。1つ目は、SNSを利用することだ。私はレポートでSNSでの集客効果は実感できなかったと述べたが、成功した事例があることを知って方法に難があったということがわかった。2つ目は、いま三国にあるものを活かして観光を盛り上げることだ。私のレポートは三国に新しいものをプラスする考え方だったが、読んだものの中には、いま三国にあるものを改善したり、広めたりするという考えのものが、「伝統や土地の強みを活かすのは大切なことである」と思った。この他にも話し合う力や考えを他者に伝える力、人をまとめる力がついたという感想もあり、そのとおりであるなどと思った。

## Ⅱ 3年間の振り返り（コミュニティデザイナーに関するルーブリックの研究開発）

(ア) 活動内容…以下に示す本校の目指す生徒像をもとに、5つの観点でコミュニティデザイナーについてのルーブリックを作成した。

- 【究】自ら問いを立て、課題に対する答えを見つけ出せる人
- 【挑】様々な出来事や困難に勇気と信念を持って立ち向かえる人
- 【結】多様な人たちと協力しながら、自分の役割を果たせる人
- 【愛】ふるさとへの愛着や周囲の人々への敬愛の念を持って行動できる人

作成に当たっては、運営指導委員の前橋国際大学長大森昭生様のご助言を基にした。生徒は3年間の学びや成長作成を根拠に、ルーブリックにて自己評価し、その根拠を自由記述した。この自己評価の結果をもとに、学年会で協議の上コミュニティデザイナーを17名認定した。

今年度は、ルーブリックの作成と実施を目標とし、内容の見直し改善や、ルーブリックをもとにした生徒支援は来年度以降の目標とした。今後は1年時からルーブリックを示し、目指す姿を意識しながら学習活動をし、学年末に自己評価を行う予定である。自己評価後には生徒と面談を行い、自己評価の根拠の自由記述を教員と生徒で今一度検証し、生徒へのアドバイスを通してより客観的に自己を振り返り、表現する力を3年間で育成していく予定である。

(イ) コミュニティデザイナー認定式の様子



(ウ) 作成したループリック

福井県立三国高等学校 目指す生徒像についてのループリック		達成段階			
目指す生徒像		1	2	3	4
<p>【究】</p> <p>授業や部活動などの学校生活、校外での生活・活動、地域などにおいて、現状を客観的に把握しようとするが、インターネット等で検索することとまっぴら。 (自分で課題を見つけない)</p> <p>自ら問いを立て、課題に対する答えを見つけ出せる人</p>	<p>様々な場面に於いて、現状を客観的に把握しようとするが、インターネット等で検索することとまっぴら。 (自分で課題を見つけない)</p>	<p>様々な場面に於いて、現状を思い込みや先入観だけでなく、自ら調査やデータ分析を行い客観的・批判的に把握した上で自分で課題を見つげることができる。</p>	<p>様々な場面に於いて、現状を思い込みや先入観だけでなく、自ら調査やデータ分析を行い客観的・批判的に把握した上で自分で課題を見つげることができる。</p>	<p>様々な場面に於いて、現状を思い込みや先入観だけでなく、自ら調査やデータ分析を行い客観的・批判的に把握した上で自分で課題を見つげることができる。</p>	
	<p>【挑】</p> <p>様々な出来事や困難に勇気と信念を持って立ち向かえる人</p>	<p>課題を分析することができない。</p>	<p>課題の原因を分析し、大まかにつかむことはできるが、掘り下げることができない。</p>	<p>課題を様々な視点から捉えて原因を分析し、解決可能なシナリオな要素にすることができ、原因に対する自分なりの解決策を考へることができ、実現可能性や有効性を考慮することができない。</p>	<p>課題を様々な視点から捉えて原因を分析し、解決可能なシナリオな要素にすることができ、原因に対する自分なりの解決策を考へることができ、実現可能性や有効性を考慮することができない。</p>
<p>【結】</p> <p>所属する集団の目標達成や成長のために自分がすべきことを自分考へ、集団内外の人と協力しながら、役割を果たすことができる人</p>	<p>困難に対して消極的で、挑もうとしない。</p>	<p>困難に対して挑戦することができ、一度で諦めてしまふ。</p>	<p>困難に失敗を恐れず挑戦し、失敗しても改善点を考へ次の挑戦につなげることができる。</p>	<p>困難に失敗を恐れず挑戦し、失敗しても改善点を考へ次の挑戦につなげることができる。</p>	
<p>【愛】</p> <p>ふるさとへの愛着や周囲の人々への敬愛の念を持って行動できる人</p>	<p>ふるさとや所属する集団の良さを表現できない。</p>	<p>ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できない。表現できない。</p>	<p>ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できる。表現できない。</p>	<p>ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できる。表現できない。</p>	

②次に、達成段階を1から順に読んで、自分がどの段階にいるかを、  
経験などを根拠に選びましょう。

①まず、目指す生徒像を読んで、  
全体を把握しましょう。

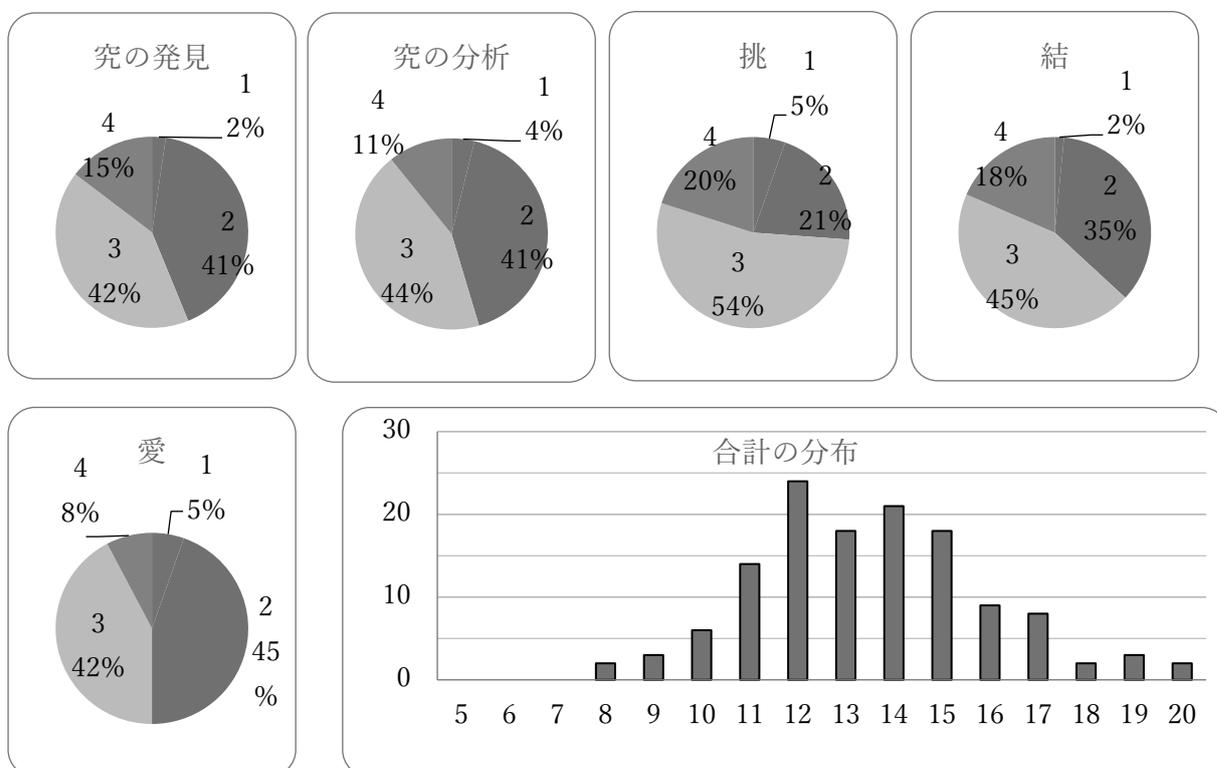
(エ) 生徒の自己評価の例

生徒	評価の観点と自己評価		自己評価の根拠(勉強や部活、総合的な探究の時間などでの経験など)をそれぞれ自由に入力してください。たくさん具体的にお願いします。
生徒A	【究】 発見	4	<p>2年生の坂井市役所への提言作成のときに、坂井市の人口減少の原因とその解決策をデータや事例などからみつけたから、【究】の発見と分析は4にした。</p> <p>部活でパフォーマンスや普段の活動でうまく進められなかったときに、自分ひとりでは改善点を見つけ出して次の挑戦へつなぐことができなかったから、【挑】は3にした。</p> <p>1年生の空き家活動で班のみんなと意見を出し合ったり、他の班の意見も取り入れながら最終的な案を作り上げたり、必要な物の調達や交渉などを率先してできたから、【結】は4にした。</p> <p>地域探求同好会で自分たちが地域を盛り上げるためにイベントに参加したり、空き家をリフォームしたり、活動をアピールしながらも三国町の発展のために活動できたから、【愛】は3にした。</p>
	【究】 分析	4	
	【挑】	3	
	【結】	4	
	【愛】	3	
生徒B	【究】 発見	4	<p>総合の授業で、私は3年間空き家を扱った問題に取り組み、データを見比べたり、研究発表会などに積極的に参加し様々な方から意見をいただき、一つ一つをしっかりと分析して取り組むことができた。また、直接町の方にお話を聞いたりアンケートを実施したことで、より深めていくことができ、視野を広げることもできた。様々な資料の中から現状を理解し地域に寄り添った政策を考えることができたので【究】発見は4にした。また、政策では地元の意見を最優先で考え、同好会では地域の行事のボランティアも行ったことから【愛】は3にした。</p> <p>部活でキャプテンを務めていたこともあり、全体に指示を出すだけでなく、練習には積極的に活動した。基本的なことではあるが、部活を休まないことやランニングは絶対に手を抜かないことなどを自分の中で決めて、最後までやり通すことができ、活動面でも後輩を引っ張ることができた。同学年の方が少なかったこともあり、後輩と協力することは常に意識していたので、【結】は3にした。</p>
	【究】 分析	3	
	【挑】	3	
	【結】	3	
	【愛】	3	
生徒C	【究】 発見	4	<p>2年生のときの総合学習を通して、地元の現状を調べデータ分析を行った上で自分たちで解決策を考えたが、あまり実現可能な案ではなかったため、【究】発見は4、分析は3にした。</p> <p>部活や3年間の学校生活を通して、1回挑戦してみて失敗したらどこがダメだったのかを考えて、改善してから再度挑戦するようになったので【挑】は4にした。</p> <p>集団で動く際に周りを見て動くことはそれなりにできていた気がするが、役割を与えられてから動くことが多かったので【結】は3にした。</p> <p>1～2年の総合学習において、地元の人達と関わったりまちおこしを行ったりすることによって改めてふるさとの魅力に気づくことができた。しかし集団の目標を自分で考えて具体的に表現することはまだ難しいので【愛】は3にした。</p>
	【究】 分析	3	
	【挑】	4	
	【結】	3	
	【愛】	3	

(オ) 分析

5つの観点ごとの達成段階の分布と、各観点の達成段階の合計のグラフを以下に示す。また、回答者数130名での各項目の平均値は、【究】の発見が2.68、【究】の分析が2.62、【挑】が2.88、【結】が2.8、【愛】が2.52、合計が20ポイント中13.5であった。

【究】の発見と分析は探究の手法という位置づけであるが、半数以上の生徒が3、4と自己評価している。今後も1、2年次での総合探究や、学校祭等の学校行事などを通して、生徒たちにこれらの力の向上を意識させ、教員がそのサポートをすることにより、この自己評価を向上させたい。また、【愛】の達成段階を3、4とした生徒が約半数と、その他の観点に比べて低いことがわかる。地域探究活動を通して、ふるさとの魅力に目を向けてきたが、表面的な調査をただで、郷土愛が芽生えていないことが顕在化したと考える。今後は、総合探究の核となる部分であるだけに、この観点の自己評価を向上できるように、深く地域の魅力と向き合える工夫を考える必要がある。



(5) 3年間を通しての成果、反省、課題

コミュニティデザイナーに関してルーブリックを作成し、生徒がそれを用いて自己評価したことが大きい成果である。今年度は、ルーブリックを用いた自己評価の結果を踏まえ、

3年学年会で検討し、18名にコミュニティデザイナーを認定した。昨年度は2年生17名、3年生2名の合計19名を認定しているので、現3年生は146名のうち約24%にあたる35名がコミュニティデザイナーに認定されて卒業したことになる。

しかし、これを生徒と教員が連携して活用する段階には至っていない。3年間を通して計画的に活用できるようなカリキュラムの開発と、分析結果をカリキュラムにフィードバックできるシステム作りが今後の課題である。

### 第3章 学校設定科目（三国の文化資源探究）

#### （1）事業の概要

令和2年度からの地域との協働による高等学校教育改革推進事業を実施するにあたり、総合的な探究の時間での地域探究学習を深めるために、三国の地域についてより深く探究するための教科「三国地域学」を設定し、本年度は科目として「三国の文化資源探究」を開講した。本校のⅡ系列文系生徒が2年次と3年次において地域の人材と協働して三国の文化資源（食・建築物・芸術作品など）について学ぶための科目である。2年次は本校の国語科，地歴公民科，英語科，芸術科，家庭科がそれぞれの単元を分担し、三国の文化資源について様々な分野において学習を進めていく支援をした。

#### （2）事業目的

教科「三国地域学」は地域の人材と協力しながら、三国の文化・環境・まちづくりなどについて学び、将来の三国地域の発展に寄与する人材を育成することを目標としている。本科目「三国の文化資源探究」では、地域の文化資源について、地域の方との交流を通じて様々な分野に渡って深く学び、それについて語るができる生徒を育成する。尚、3年次にはグループ研究を行い、その成果発表をする。

#### （3）事業計画

分野	月 日	学 習 活 動
オリエンテーション	4月16日	「三国の文化資源探究」についてのガイダンス
①三国の 伝統・文化	4月23日	三国神社と三国祭（講演：三国神社宮司 佐々木智氏）
	4月30日	三国祭とお囃子（講演、実演：村田ひとみ氏）
	5月7日	三国祭と山車（講演：石丸博巳氏）
	5月14日	まとめ活動
②三国の 食・物産	6月18日	らっきょう工場見学と収穫体験（三里浜特産農業協同組合）午前中3時間
	6月25日	海女の仕事について、もみわかめ作り体験（講演：松原美愉氏）
	7月9日	まとめ活動
③三国の 寺院・古墳・ 建築等	10月1日	瀧谷寺、大湊神社・雄島、魚志楼、旧岸名家・旧森田銀行本店、三国港突堤に訪問（グループに分かれて各所を訪問し、講義を受け取材を行う）
	10月8日	グループ発表（訪問先で学んだことを共有）
④三国の作家 や芸術家	11月5日	芸術家 小野忠弘氏について（講演、対談：戸田正寿氏、松村典尚氏）講演後 ONO メモリアルに訪問
	11月12日	地元の音楽家 ヒナタカコ氏とナレーターの岡田健志氏による講演と詩の鑑賞
⑤北前船 交易・寄港地	11月26日	事前学習（スライドや動画を使って担当者が講義）
	12月10日	北前船講座（講演：上出純宏氏）

グループ研究 準備	1月14日～ 2月25日	学習の振り返りとグループ研究に向けての準備。三国の文化資源をPRする動画を作成するための計画。
--------------	-----------------	---

#### (4) 事業実績紹介

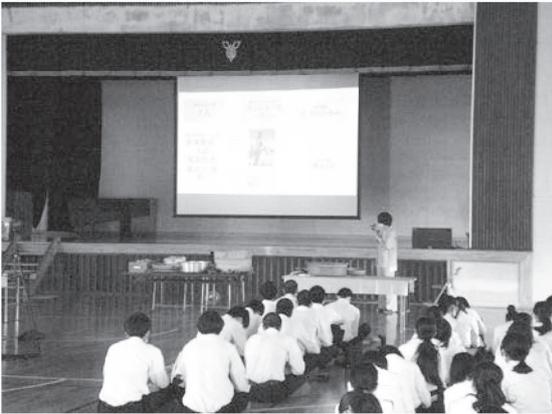
##### ①三国の伝統・文化

活動内容…講演を拝聴して、三国祭の始まりや歴史、お囃子、今後の課題など、三国祭について多方面から詳しく学ぶことができた。講師の皆さんの知識の豊かさに触れ、語りかける情熱に圧倒された。三国祭は昨年度、コロナ禍で開催ができなかったが、本年度は出店等はないものの、山車を出すことができ、一部の生徒は山車曳きのボランティアに参加した。本授業が生徒たちにとっては実際の三国祭の事前学習となっており、それを受け当日の祭りを迎えることが出来たことは大変意義があった。



##### ②三国の食・物産

活動内容…らっきょう工場見学では、三国の特産である花らっきょうの生産、加工、流通、歴史について講演を受け、工場内で説明を受けながら生産の工程や出来上がった製品を見せていただいた。その後、らっきょう畑で収穫体験も行った。海女の松原さんからは三国の海で働く海女さんの仕事やその仕事のやりがいについて学び、もみわかめ作りの体験も行った。両講座とも講演だけでなく、体験を交えての学習であったため、生徒たちは生き生きと活動に取り組み、三国の食・物産について深く学ぶことが出来た。



### ③三国の寺院・古墳・建築等

活動内容…瀧谷寺、大湊神社・雄島、魚志楼、旧岸名家・旧森田銀行本店、三国港突堤の5カ所に分かれて、グループで訪問した。訪問場所で担当の方から詳しい説明を受け、インタビュー等を行った。そこで記録した内容や写真をもとに、次の週に各訪問場所からのメンバーで構成されるグループを組み、各自の訪問先について発表して情報を共有した。



### ④三国の作家や芸術家

活動内容…ジャンクアートの巨匠 故小野忠弘氏についての授業では、地域の方から作品をお借りして、実際に体育館に作品を展示して鑑賞した。三国在住の著名なアートディレクター 戸田正寿氏、大湊神社宮司の松村典尚氏の対談を聞きながら小野氏の人物像や業績について学んだ。その後ONOメモリアルを訪問し、小野氏の様々な作品に触れた。ヒナタカコ氏、岡田健志氏の授業では、お二人とも本校出身ということもあり、高校時代のことやご自身の経歴を紹介していただいたあと、三国町にゆかりのある詩人であり、本校の校歌の歌詞を書かれた三好達治の詩を鑑賞し解説をしていただいた。





#### ⑤北前船交易・寄港地

活動内容…みくに龍翔館の前館長の上出純宏氏を講師にお招きし、北前船の歴史、商業地としての三国の発展について語っていただいた。これまで学んできた三国の文化資源とのつながりも見られ、事前学習を行っていたこともあり、既知情報を利用しながら講演内容について理解を深めることができた。



#### (5) 事業の総括と今後に向けて

開講初年度ということもあり、前年度に準備期間があったものの、実際に始まると地域の方の支援を得ながら手探りで授業を計画していくが多かった。また、コロナ禍で学習活動が制限されたり、授業の日程が変更になったりと、対応に苦慮する部分が多々あった。しかし、生徒たちにとっては一定の学習効果があったと思われる。振り返りのレポートの中で、地元にいながら知らない部分があり新たな発見があったということを書いている生徒もおり、総合的な探究の時間で行っている坂井市への提言活動で、本科目で学んだ三国の文化資源を活かして提言の内容を考える生徒もいた。本科目では地域の人材が「先生」となって授業を行い、地域の方と生徒を繋ぐことで、学校の教員では伝えられないこと、教科の授業では学べないことを生徒たちが学ぶことが目的の1つでもあったが、ある程度実現できていた。

課題としては、授業の内容や展開について、もう少し学校側が主導すべきところがあったという点が挙げられる。特に講演では、その時間に生徒に学んでほしいことがしっかり学べるように、講演者との打ち合わせをより綿密に行うべきであった。また、事前学習を行う時間を持つべきであったという意見も出た。この分野ではどういうことを学んでいくのか予備知識を入れることで、地域の方からの学びが深まりやすくなったのではないかと考える。3年次からはグループ研究活動が本格化するが、できる限り地域の方とつながる機会を持たせ、研究内容に広がりや深みが出るよう進めていきたい。

#### 第4章 地域探究同好会「地究」の活動（ワクワク未来考場）

令和2年度より地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成するために同好会を立ち上げ活動している。令和3年度は31名の会員が集まってくれた。コンソーシアムの方々の協力のもとでいろいろな行事を行うことができた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行事が途中延期になったり、中止になったりした。

同好会の拠点としてUDCSから三国町の空き家を一軒（吉野家）借りているが、令和3年度もこの吉野家を利用した行事はあまりできなかった。来年度以降に吉野家を活用できるようにしたい。

以下に令和2年度の報告書に記載できなかった活動の内容を含めて令和3年度に行った行事を時系列にまとめて記載した。

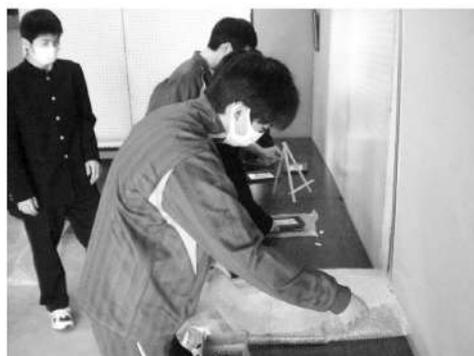
3月20日 『棒人間アート』 12名参加 13:00～15:00 UDCS



令和2年度最後の同好会で、吉野家の掃除と今後の活動をどうするかを協議した。この後、UDCSで開かれていた、棒線と丸で描いた人間を点描画のように配置して動物や文字を表現する「棒人間アート」を見学した。全身の筋肉が徐々に衰える難病「筋ジストロフィー」と闘いながら作った福井特別支援学校高等部3年の山崎海斗さん（17）の作品である。

3月29日 『棒人間アート後片付け』 6名参加 10:00～11:00 UDCS

棒人間アート展の準備は、UDCS・坂井市の職員と中学校時代の同級生がしてくれたが、後始末は地域探究同好会の生徒が手伝った。貴重な作品なので慎重に後片付けをしてくれた。



4月9日 『1年生対象 部活動紹介』 2名参加

会長と副会長が本校生徒の1年生全員を前にして地域探究同好会の説明をした。昨年度の同会の活動状況や他の部活動との兼部ができることなどを説明していた。

4月16日 『部活動ミーティング』 16:00～17:00

同好会に入ろうと決めた生徒が入会カードをもってきた。会長・副会長の紹介と昨年の活動状況をパワーポイントで見てもらい説明した。

4月22日 『吉野家見学』 15名参加 16:45～17:30 吉野家

新しくたくさんの生徒が入会してくれた。地域探究同好会の本拠地である空き家の吉野家に行っていない会員を対象にした見学会を行った。ちょうど天気良く、本校から約2km離れている吉野家を歩いて見学することができた。吉野家の中に入り、リフォームした屋根や新しく入れた畳・襖、カーテンや除草をした庭を見もらった。また、2階のふかふかして抜けそうで危険な床の部分も確認した。

5月7日 『第1回同好会』 27名参加 16:45～17:45

各学年男子と女子に別れてグループを作り、今年行いたい行事や内容を話し合った。グループ内でいろいろな意見を互いに出し合って検討し、ホワイトボードに書き込んだ。それから、吉野家の庭整備班・企画会議班・2階整備班の3班を作り、全員がどれかの班に入るようにして、それぞれ班の代表・副代表を選んだ。



5月20日 『三國祭りボランティア』 19名参加 (内同好会13名)

12:00～18:00 三国市街

本校から地域探究同好会のメンバー13名と地域探究同好会には所属していない6名の計19名が参加した。山車が三国神社を出発した12:30には天気は曇りであったが、ぽつぽつと雨が降り始め、15:00には土砂降りの雨になってしまった。気温も下がり、体温が奪われる中で試練のボランティアになってしまった。途中、三国神社の御神輿を、坂の上にあげるのを手伝ったりもした。三国祭りを保存しようとする気概が伝わってきた。



6月1日 『班長・副班長会議』 6名参加 16:00～17:00

前回吉野家の庭整備班・企画会議班・2階整備班の3班を作り、それぞれ班の代表・副代表の生徒6名と教員で、前回の資料を基に話し合った。庭整備班からは、きれいにした庭に石と樹木を植えて日本庭園風にしたいという案がでた。2階整備班からは家の前面にあるタンス等を除いて広くすることとふかふかした部分を修理したいという案がでた。企画会議班からは、吉野家の装飾をしたいという案がでてきた。その他、吉野家の案内板を作り、夜間照明をしてライトアップする案などもでてきた。

6月5日 『芝桜除草ボランティア』 5名参加 8:00～9:00 汐見公園

前日が雨で少し天気を心配したが、当日は晴天で風もなく、気持ちよく芝桜除草のボランティアができた。10数人の大人に交じって、芝桜を傷めないような除草の仕方を教わりながら慎重に除草を行った。

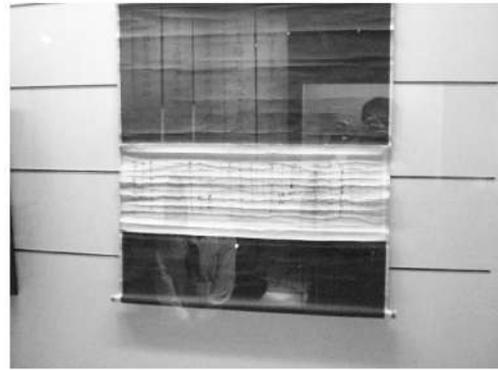


6月12日(土) 『福井県ふるさと文学館の新収蔵品展見学』 2名参加

14:00～17:00

福井県ゆかりの作家にまつわる品々を紹介する福井県ふるさと文学館の新収蔵品展が開催され、本校の生徒2人がその中の本校の校歌を作詞した三好達治の草稿を見学に行った。草稿には今の校歌と異なる部分もかなりあり、三好の苦悩のあとが見えた。今の校歌の歌詞と一致する所

は、ほぼ墨で書かれているのも興味深かった。その他の作家のことも学芸員の方に詳しく説明していただいた。



福井県ふるさと文学館の撮影許可有り

6月17日（木） 『第2回同好会』 29名参加 16:40～17:20

昨年に行った「海からのおくりもの」の行事の参加、三国節保存会からの7・7・7・5の歌詞の募集、三国輪踊りでの照明の参加などを連絡した後、全員で写真を撮った。その後、吉野家の改修について3グループに分かれて話し合いを進めていった。

吉野家の庭整備班では、お店に行って実際に庭に植える樹木や置き石を探しに行く話を進めた。2階整備班からは家の前面にあるタンス等を除いて広くすることやふかふかした部分の畳をめくり、実際の状況を確認して建築会社と協働して修繕する計画を進めた。企画会議班からは電球カバー・照明・ドアプレート・すだれなどの装飾を施すことにした。



6月19日（土） 『吉野家の庭の改修のために必要な物の準備』 1名参加

15:00～17:00 三国市街

庭改修班の班長とホームセンターへ行って、庭に敷く石の種類と価格、庭木の種類と価格を見に行き、写真を撮った。その後、石材屋や盆栽店にもよって、いろいろと庭づくりについて教えていただいた。

7月22日（木） 『同好会の企画会議と庭整備』 9名参加 13:00～15:00 吉野家  
同好会の人数が多すぎるので「海からのおくりもの」の行事を1・2年生が担当し、吉野家の改修は、3年生が担当することになった。企画会議班は、「灯りのしるべ」の行事に備えて、電球カバーの買い物に行く者と吉野家の1階を整備する者に分かれて活動した。残念ながら電球カバーはうまくできなかった。庭整備班の3名は、庭の草を取り除き、植わっていた木を取り除いたり、剪定したりした。前顧問の先生が差し入れをしてくれて楽しく過ごすことができた。

8月1日（日） 『庭整備』 2名参加 8:00～9:00 吉野家  
22日に除草をした庭に草が生えないように庭整備班2名で防草シートを張った。排水用のマンホールなどはシートをくり抜いて張った。それから3種類の石を敷いてみた。黒よりも白い色の石が日本庭園風の庭にはふさわしいということが分かったので今後白い石をたくさん買って敷くことにした。



8月2日（月）『海からのおくりものスタッフ会議』 第1回 6名参加 14:00～16:00  
雄島地区町づくり協議会から4名の方が生徒を指導してくださいました。昨年の取り組みの内容を説明していただき、生徒達に曼荼羅チャートを使って、参加してくれる子供達を楽しませるアイデアを出し合った。



8月5日（木）『海からのおくりものスタッフ会議』 第2回 5名参加 14:00～16:00  
砂浜にボールを埋めて子供達に探してもらおう宝探しをすることになった。明日同好会1・2年

会員全員に説明するために具体的な方法や準備について話し合った。5人は遅くまで残って案について話し合っていた。

8月6日（金） 『海からのおくりものスタッフ会議 第3回』 16名参加

14:00～16:00

本日の参加者を、仮に受付・待機所・宝探し場所・景品交換所の4班に分け、先日考えた案の実施方法や準備物について詳しく話し合った。その内容についてそれぞれの班の班長が全員の前で発表し、質問などをしながら練りあげていった。



8月7日（土）『芝桜除草ボランティア』 2名参加 6:00～7:00 汐見公園

夏の暑い時の早朝にも関わらず、2名が参加して除草をしてくれた。雑草は多いのではないかと想像していたが、前回除草をしていたので、それほど草は多くはなかった

8月11日（水） 『海からのおくりものスタッフ会議 第4回』 19名参加

14:00～16:00

雄島地区まちづくり協議会の方から、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止になる可能性がでてきた旨の説明があったが、進めていった。前回と同様に受付・待機所・宝探し場所・景品交換所の4つに分かれて細部を詰めていった。班長達は、残って人員配置や当日の計画について話し合った。

8月16日（月） 『雄島地区まちづくり協議会』 1名参加 19:30～

雄島コミュニティーセンター

同好会の「海からのおくりもの」の代表者が雄島地区まちづくり協議会の会議において「海からのおくりもの 高校生企画」の実施の目的や方法について発表した。新型コロナウイルス拡大のため縮小して行うという原案であったが、実施反対の意見もかなり出ていた。結局は中止になってしまい、生徒達はとても落胆していた。

9月6日（土）『石を吉野家の庭に敷く』 1名参加 9：00～10：00 吉野家

ホームセンターで買ってきた庭石を庭にまいた。かなりの石の量があったが30分程で敷き終えることができた。なかなか良い出来映えであった。



9月11日（土）『三国節歌詞募集表彰式』

三国節保存会が昨年初めて三国節の歌詞を小学生・中学生・高校生・一般と募集した。三国節は毎年三国の「輪踊り」の中で歌われるものである。三国高校も地域探究同好会が中心となって校内で募集をした所、たくさんの歌詞が集まった。その中で最優秀賞を頂いた歌詞は次のようである。

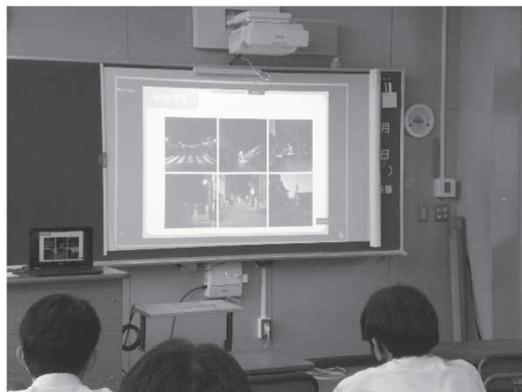
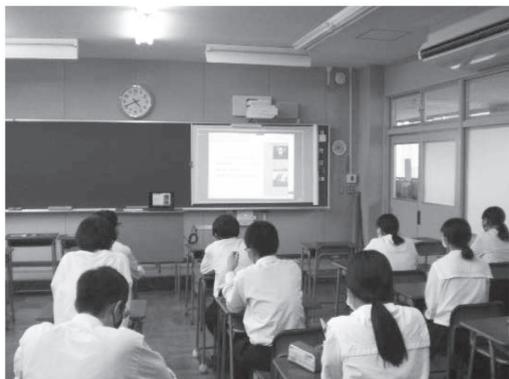
最優秀賞 「よいさよいやさ 波かき分ける 思い背負った エッセル坂」

9月11日（土）に表彰式が行われたが、前日に本校の別の生徒が新型コロナウイルスに感染したため、参加することはできなくて残念であった。



9月24日（金） 『「灯りのしるべ」の講演』 19名参加 16:45～

福井工業大学の三寺教授と大学院生の中西様からZoomを使って「灯りのしるべ」について講演をしていただいた。中西様からは、スマートフォンを使って三国の風景を各自が16枚撮り、その中から気に入った写真をグループで選んで漢字をつけて表現しようという宿題の説明をしていただいた。次回、互いに説明し合い、三国の文化・環境を簡単に写真と漢字で伝えられるものを作ろうという趣旨である。また、三国の伝統である提灯も作る予定である。



10月2日（土） 『芝桜除草ボランティア』 3名参加 8:00～9:00 汐見公園

3名が参加してくれた。内2名は3回目、1名は2回目の参加である。3人とも家が汐見公園に近いということもあるが、しっかり除草に取り組んでくれた。11月の芝桜の植栽に参加できなかったのは残念である。

10月13日（水） 『灯籠搬入（業者作業）』 13:00～13:30



いよいよ灯籠を吉野家の庭に置くことができた。落ち着いた良い眺めである。中間考査期間中のため庭の整備に関係した生徒を立ち合わせることができなかったのが大変残念であった。なかなか業者との日程が折り合わずこの日に置くことになってしまった。

10月16日（土） 『ハロウィンのボランティア』 8名参加（内6名同好会）

13:30～16:00 三国市街

三国の小学生が地域にまつわるクイズを解きながら三国の街を回るハロウィンの行事の見守りと受付のボランティアをした。気温がやや低くかったが、三国高校の生徒も思い思いの仮装をしながら、それぞれの役割を果たしてくれた。



10月22日（金） 『第3回同好会』 16:45～16:55 20名参加

福井工業大学の三寺教授と大学院生の中西様から「灯りのしるべ」について実習（三国市街地の写真のと提灯製作）をする予定だったが、先方の都合により延期になってしまった。会長と副会長の選出と今後の計画について連絡をした。

10月30日（土） 『歴史散策』 9名参加 9:00～11:30 三国市街

10月の終わりということで天気が心配であったが晴天で風もなく絶好の散策日和となった。三国の歴史的に重要な高見順生家・金鳳寺・勝授寺・森田銀行・久昌寺・氷川神社をみくに龍翔館元館長の上出さんから丁寧な説明をしていただいた。三国湊と町づくりの関係など非常に興味深い内容であった。久昌寺では、滅多に見られない五百羅漢の像を見せていただき、住職から説明をしていただいた。生徒達も興味を持って散策することができた。



11月14日（日） 『エッセル坂クリーン作戦ボランティア』 9名参加

9:00～10:00エッセル坂

13日の土曜日の予定であったが天候の関係で14日の日曜日に延期になった。当日は晴天で風もなく絶好の日であった。例年は三国の区長さん10数名で行っていたそうである。落ち葉は例年より多いようであったが、本校の野球部8名・小中学生数名も参加してくれて1時間程度できれいにすることができた。終わった後はすがすがしい気持ちになった。



2月19日（土） 『福井ラウンドテーブル2022 Spring Session』

4名 参加13:00～16:00

福井大学連合教職大学院が主催するラウンドテーブルは、参加者が試行錯誤を重ねながら進めてきた取り組みを、より広く伝え合い、じっくり展開を聞き取り、学び合う場である。このイベントに同好会の4名がオンラインで参加した。本校の地域探究同好会の活動の内容を発表したり、県内外の高校の発表も聞いたりして互いに交流を深めた。



## 第5章 各教科での活動

今年度も各教科で地域のコンソーシアムや企業・知人を通して講師をお願いし、本校生徒に対して講義・見学をしていただいた。コロナの影響などはあったが、以下の3つの講義・見学を行うことができた。いずれも生徒達は、熱心に講師の話の聞いたり体験をしたりして、今後の進路の選択に役立ったものと思われる。

### ① 演題 三国町の伝統文化（刺し子）についての理解を深め、技術を学ぶ。

#### ○対 象

3年3・4組 服飾文化の受講生徒 22名

#### ○日時・場所

4月26日（月） 2限目（9：45～10：35） 第1被服室

#### ○講 師

森岡 千代子 氏 坂野上 百恵 氏（安島モッコの会 代表）

#### ○内 容

昨年度に引き続き、三国町の伝統文化「安島モッコ刺し」について講演と実技講習をしていただいた。刺し子が誕生した経緯や北前船との関連について、分かりやすく説明していただいた。江戸時代に着用されていた着物や前掛けなど実際に手に取り見せていただいたり、モッコ刺しの施された法被を着せていただいたり貴重な経験ができた。また、日本で最も針目が細かいことが特徴である安島モッコ刺しの基本となる運針を実際に指導していただいた。針目の細かさに苦戦しながらも生徒たちは集中して運針に取り組んだ。



### ② 演題 水族館における海洋生物の調査保護や繁殖活動

#### ○対 象

3年生 理系生物選択者15名（3年1組1名、3年2組14名）

#### ○日時・場所

10月4日（月）7限目 3C講義室

#### ○講師氏名

鈴木 隆史 氏（越前松島水族館長）

## ○内 容

水族館の役割や越前松島水族館における調査保護活動や繁殖活動について、環境問題にも触れながらお話をしていただいた。あわら市海岸でのアカウミガメの産卵では、生物の不思議さ、沖縄でのアオウミガメの繁殖で生まれたコガメの放流では、生態系のバランスを崩さないための工夫が、とても印象深いものであった。越前松島水族館の海洋生物の調査保護や繁殖活動のすばらしさに、生徒は海洋生物への興味関心を高めるとともに、生物の不思議さに感動していた。



### ③ 研修 水族館のバックヤード見学と職員による海洋生物の説明

#### ○対 象

3年理系生物選択者15名（3年1組1名、3年2組14名）

○日時・場所 10月14日（木）13:00～15:40 越前松島水族館

#### ○講師・氏名

井上 晃秀 氏、大貫 由芽 氏、笹井 清二 氏、高橋 一樹 氏

（越前松島水族館職員）

#### ○内 容

井上さんから普段は見られない水族館の裏側を見学した。床がガラス張りの「さんごの海」水槽の裏側を見学し濾過装置についての解説を受けたり、予備水槽の魚やウミガメ・飼育研究棟を見学し解説を受けたりした。その後、3班に分かれ、笹井さんからコンペイトウとマンボウ、井上さんからミズタコ、高橋さんからクラゲ・淡水魚の説明や飼育の苦労などのくわしい解説を受け、知識を深め、生物の不思議さに感動していた。最後にウミガメの餌やりをみんなで体験した。その後、イルカショーを見学したり、興味ある海洋生物を見学したりして、久しぶりの越前松島水族館を満喫した。



## 第6章 事業を支援する運営指導委員会等の報告

令和3年度も1～3年生の総合的な探究の時間（三高地域プロジェクト）やワクワク未来考場を担う地球探究同好会「地究」の事業を円滑に進めるために、本校ではコンソーシアムの方や地域協働支援員・カリキュラムマネジャー・運営委員の人々などと多数の会議を行った。おかげでたくさんの事業を有意義に進めることができた。新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインで行った会議もあった。以下に会議等について記録を掲載する。

### 6-1 地域協働プロジェクト推進室会議 I

① 日 時 令和3年6月28日

② 場 所 福井県立三国高等学校 会議室

③ 出席者 運営指導委員 日本大学生物資源科学部教授

松田淑子 氏（オンライン出席）

福井大学教職員大学教授 木村 優 氏

三国高校校長 上山康一郎 三国高校教頭 富澤宏二

三国高校事務局 藤田博雅 三国高校事務局 村 昭信

三国高校事務局 藤田正人 三国高校事務局 堀 裕樹

三国高校事務局 大岡幹生 三国高校事務局 勝山智央

#### ④ 研究協議会

- ・ 1, 2, 3年の総合的な探究の時間について

6月15日（火）の「アズAS☆×地域（まち）の担い手づくりプログラム」と2年生の総合的な探究の時間について

- ・ 学校設定科目「三国の文化資源探究」について
- ・ 学校設定科目「三国の環境資源探究」について
- ・ コミュニティデザイナーの資格について
- ・ 地域探究同好会の活動について

（各委員より指導・助言、意見交換）

【教頭】まず、総合的な探究の時間の取り組みについて協議したい。まずは1年生からお願いしたい。

【堀】1年生は、4月当初からのオンラインを利用した2回の講演を通して、総合の探究をこれからどうやって進めていくのか、空き家問題をどう解決するのかといったアイデアを出す学習をしている。また、実際に三国の町を歩いて、空き家の活用例を見たのはアイデアを考えるいい経験になったと思う。さらに、先輩の2年生からのアドバイスの映像を見たことも、生徒にとっては考えるいい機会になったのではないかな。

アズASとの取り組みは、企業の方が25名参加していただいて生徒と話し合いを持った。企業はどのようなものかなどを探るため企業の方にインタビューをし、逆にサポートもしてもらってポスターにまとめるという活動をした。

1年生の印象は、中学校でもかなり経験しているようで、話し合いには結構慣れているよ

うに見えた。うまい下手はあったが、生徒は自分なりに発表していた。声が小さくて聞こえない班もあったが、頑張っていたようだ。周囲からも高評価を得ている。

【木村氏】すべてのクラスの取り組みを見せていただいた。ほとんどの生徒が話し合いをしっかりやっていた。企業の方に丁寧に対応していた。この取り組みは企業の宣伝にもなっており、まとめもそうになっていた。しかしこの取り組みからの広がりをどう保証したらいいのか。また、空き家の探究とどう関係性をもたせるのか。この点が考え所である。三国の人口は、減少を続け、空き家が増加している。しかし、三国には他の地域にはない、祭りとか海産物の資源がたくさんある。そことうまく関係性を持たせられるといい。

【大岡】2年生では、かなり広げていると思う。1年生で空き家活用をやってみて十分に地域のことを知り、考えてきた。2年生ではこの取り組みを踏まえて、坂井市のいろいろの課題を考えている。三国のいいところを深掘りしていきたい。特に三国祭りなど、伝統文化を取り上げていきたい。

【松田氏】当日、映像を見せていただいたが、聞こえてくるのは先生の声が大半で、生徒の活動する声が残念ながらうまく聞こえなかった。空き家探究活動は大変魅力的である。1年生でも中学校でかなり探究活動をやっているのだから、新しい視点が欲しい。もう少し深掘りした視点が欲しい。3年生までの総合探究の筋道が生徒もある程度分かってきているので、ハードルを高めた活動をして欲しい。

【勝山】1・2年生では、いいね、いいねで生徒のやることに否定的な意見はしなかったが、今では「どうかな」と思うようになった。もう少し厳しいやりとりをした方がよかったかなと思っている。

【校長】議員や学生、市の職員などいろいろな方にきてもらっているが、いいなと思う部分は引き上げて欲しい。しかし、細かいことをもっとつついて欲しいと思う。対応している教員にはそれをやるのは難しい所もあるだろう。

【勝山】レポートなどももっと赤を入れてやると、もっといいものができたかもしれない。

【松田氏】生徒に対して「何で？、どうしてそうなのか？」といった質問がもっとあってもいい。「どうしてこうなったのか具体的に教えて？」という問いかけをしてやると、子供達は目の色が変わってくる。子供のやる気につながる質問をして欲しい。

【村】探究が形だけになっているという感じを受けた。確かに生徒はチャレンジングではないとも思った。知らない人にインタビューをしてまとめる経験はしたが、もう少しハードルを上げる工夫をした方がよかった。学校側の意図とアズAS側の意図が少しずれているのが見えた。

【堀】確かにアズASと我々の総合探究は完全にはマッチングしていない。企業をもてなす感

じでいくとうまくいくと言われたが、企業はなぜその地域で、何を目的に活動をしているのかを知ることは今後の活動を進めていく上で大変力になると思っている。

【木村氏】アズASはどうしても企業目線で取り組みを進めている。その位置づけをどうするのか、子供にとっていい方向にして欲しい。

【教頭】それでは、2・3年生の総合的な探究の時間について協議したい。まずは2年生からお願いしたい。

【大岡】2年生では、ゴールは坂井市議会で提言を行うということである。1学期はSDGsを使って地域の課題を深めたり、内閣府の報告を調べ、坂井市の課題をどのように解決するかを考察したりしている。流れは、去年の2年生と同じであるが、ものすごく丁寧にやっている。アイデア出しも大変時間をかけてやっている。

UDCSの中島先生がWANT、CAN、NEEDの話をされたのを実践している。生徒のプリントの内容もハードルを高くして、ものすごく細かくチェックをかけている。生徒の中には、すごい内容のものも出てきた。生徒に声をかけないとだめだと思う。突っ込まないとだめだと思う。突っ込むことでアイデアが生き生きとしてくる。「男性の育児塾をつくる」とか「ゆりをテーマにしたアートセンター」とか、おもしろい意見が出ている。すでにUDCSや坂井市役所の若い人に来てもらっていろいろな生徒に関わってもらおうよう話をしてある。

【教頭】去年はコロナでうまく活動ができなかったが、今年は細部に渡ってしっかりと総合をやっていると思う。次に3年生の取り組みについて協議したい。

【勝山】3年生では、ひたすら振り返りの文章を書いている。グーグルドライブ内で内容を更新している。2年間の活動を振り返ってどのような経験や反省があったか自己アピール・志望理由と合わせて考えている。文系の学部は反映しやすいようだ。理系的な面でも進められたらいいかな。地域のために深く考えていきたい。成長があるといい。振り返ることによっていろいろな学びができると思う。

【松田氏】大岡先生の発言から2年生の頑張りがよく分かる。生徒への声かけを頻繁にされているのがいい。また、自分のやりたいことをしっかりやっているのも、生徒自身のものになっているなど感じている。3年生は振り返りをやられているということだが、それを吐き出す場面を作られるといいのではないかな。ラウンドテーブルを取り入れるなどして数人のメンバーと話すとか広がったり、深まったりすることがある。

【木村氏】大変いいなという感じを受けている。2年生はアイデア出しで男性育児塾などのアイデアがたくさん出ていると言うことでいいのだが、計画をみると11月から議会への提言という事になっているが、ただ提言するだけなのか。実践をしないのか。羽水高校でもそうであったが、市役所にいろいろ提言はするがその後がない。市役所にアイデアだけ押しつけて、ある意味で無責任である。子供達の自走の走がない。アクションを起こさないと意味が

無い。

【大岡】 4月からアイデア出しをし、11月に提言をし、その後に振り返りをする予定だ。この段階でアクションを起こすのは時間的に難しい。アイデアを絞ることさえ難しい。今後UDCS・坂井市の方々に来ていただいてしっかりと修正していきたい。来年の3年生になった時にゆっくりと時間をかけてアクションをかけていきたいと思っている。

【木村氏】 アクションには大きいアクションと小さいアクションがある。テーマをアクションすると、常にリアクションが帰ってくる。正しくリアルな話になっているか、しっかりと保障をしてやらないといけない。下級生に3年生が発表をするというのはすごくいい。3年生から後輩に「後はまかせた。引き継いでくれよ」ということでいいサイクルが生まれてくる。是非、生徒の背中を押してあげて欲しい。

【教頭】 次に学校設定科目について協議したい。説明をして欲しい。

【村】 学校設定科目は文系2クラスが週1時間で実施している。4月から取り組んで、現在三国の伝統文化と食と物産が終了した所である。スライドで講義していただいたり、実際に演奏をしていただいたり、現地に赴いて体験したりしている。内容は講演が多く、生徒達は少々講演疲れをしているようだ。質問はその場ではあまりできていないが、振り返りシートを見るとそれなりに疑問をもっているようだ。後半からグループ活動が始まるが、どのように進めていくか迷っている。

【大岡】 講演疲れを感じている。しかし、知り得た情報をもとにしっかりとアウトプットしている子もいる。

【松田氏】 この学校設定科目は、子供達にどのような効果があるのか。

【村】 毎回、生徒には講演会でとったメモをまとめさせ、感想をタブレットを利用して書かせ保存させている。地域を知り、探究することは生徒の知識を深め、将来的に行動力の源となるであろう。

【木村氏】 感動している。後半のグループ活動であるが表現の仕方の工夫をすると良いのではないか。表現はなにもポスター発表やスライドによる発表だけでなく、演劇・歌・絵といった手段で表現してもいいだろう。総合的な探究の学習にも関連づけて生きてくるだろう。感動した。

【校長】 先が見えなくてモヤモヤしている感じがしていたが、この会を踏まえて少し明るい兆しが見えてきたような気もする。新しい学びに繋がったのではないか。



## 6-2 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅱ

- ① 日 時 令和3年11月2日
- ② 場 所 福井県立三国高等学校 会議室
- ③ 出席者 福井大学教職員大学教授 木村 優 氏  
アーバンデザインセンター坂井 浜田 剛 氏  
三国高校校長 上山康一郎 三国高校教頭 富澤宏二  
三国高校事務局 藤田博雅 三国高校事務局 村 昭信  
三国高校事務局 藤田正人 三国高校事務局 堀 裕樹  
三国高校事務局 大岡幹生 三国高校事務局 勝山智央
- ④ 研究協議会

総合的な探究の時間の評価について

(各委員より指導・助言、意見交換)

【校長】生徒を評価するのに地域の人に意見を聞いたり、評価をしてもらったりするケースはあるのか。

【木村氏】少しずつそのような傾向にあると言っていい。

【教頭】実際教員は、総合的な探究の時間の予定を考えるだけで大変である。地域の人に生徒の評価をしてもらうために観点を作る必要はあるのか。

【木村氏】どういう力を生徒に付けさせ、どういう風に伸ばしていくかを考えるために観点を作る必要はある。

【教頭】総合的な探究の時間は学年会でいろいろな打ち合わせをしている。時間の関係で、なかなかこんな力を付けさせたいという話にはならない。

【堀】2年前に若い教員で教育目標を考え、こういう力を付けさせたいという話はかなりしている。そして、一応職員会議にて教員全体の共通認識は持ったと思う。空き家コンペを実施するに当たり、新しい教育目標に沿った力を付けさせたいという思いはあった。生徒にも言っているが、生徒自身はそういう風に思っているかどうかは分からない。

【木村氏】付けさせたい力、伸ばしたい力は評価する人に共有していなければならない。若狭高校でもそうだったと思うが勝山先生はどう思うか。

【勝山】今日のコンペは三国高校では3回目になる。初めて評価表を作ったのは私だが、そのまま継続して使われている。今になって思うが、この評価表はプレゼンテーションのパフォーマンスが主になっていて内容自体をしっかりと評価する評価表になっていない。本当の評価表になっていないと思う。教員はみんな生徒にレベルアップをさせたいと考えていると思うがどういう風にレベルアップさせていったらいいのか。

【木村氏】生徒が3年間でどうプロGRESSするか。今1年生で空き家のコンペをして評価表を書かせたが、先生と先生の間、先生と生徒との間で共有ができていたのか。

【勝山】三国高校は1年生で空き家の活用、2年生で坂井市のへの提言と本日の空き家コンペのような大きな事業がいくつかあるが、三国高校全部の先生に見てもらいたいのではないのか。そして、教員みんなが評価について議論ができる時間があると共通した評価ができるようになるのではないのか。

【大岡】現在の2年生も多くの外部の大人に来ていただき、活動に関わって頂いている。そうすることによって生徒は緊張感と新鮮さを感じることができる。しかし、その度に最終的なゴール目標を求めてしまう。それぞれの行事で小さなゴールを段階的に作ることができるようになれば、しっかりとした評価表を作ることができるのではないのか。評価表の段階をもっと細かくしていけばいいのかもしれない。

【木村氏】細かくすればするほど教員の首をしめることになる。生徒自身がプロGRESSすることが一番のゴールであり、大事なことである。また、生徒が自分自身で自分の力を振り返ることも大切である。自分自身のメタ認知につながる。

【勝山】レベルアップをさせるために生徒への動機づけはどうしたらいいか。

【木村氏】学び方・デザイン・カリキュラムの見直しをすること、それから、こんな力を付けたいと考えること。本日の空き家コンペでもよい面と悪い面がある。真剣に考える生徒がいるが、真剣でない生徒もいる。どうせ誰かが考えてくれると思っている生徒もいる。コンペの中で、カフェで地域の人と交流するといことを提言している班があったが、地域の人との交流も大事である。

【浜田氏】先生の言われる評価というのは、生徒1人1人に対する評価のことか。

【木村氏】生徒1人1人に対する評価が基本であるが、プロジェクトにどういう評価をつけるということも大事である。

【浜田氏】本日のコンペのように生徒が多すぎての名前が分からない場合は、1人1人の評価をつけるのは難しい。どうしてもチーム毎の評価になってしまうが、どのようにお考えになるか。

【木村氏】先生の生徒に対する評価、地域の人々の生徒に対する評価、それから生徒の自分自身に対する評価、いろいろな評価の仕方がある。当然その評価の間には「ずれ」が生じると思う。このずれを、話し合いを持つことによってできるだけ小さくすることは大事なことである。

【村】一つ一つの活動を通して生徒に力をつけさせ、評価をしたいと我々教員は考える。しか

し現実忙しくて時間がとれない。互いに共有し合うことも難しい。どうすれば生徒に付けさせたい力を考えたり、反省をピックアップしたりする体制が作れるか。

【木村氏】最近いろいろなところでデジタル機器が使われている。評価に関することなどで時間が取られ、教員の働き方改革に逆行する訳にはいかないので、デジタル機器に頼るのも1つの手である。難しく考えずにやれるところからやっていく、考えていってはいかがか。



### 6-3 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅲ

- ① 日時 令和3年11月12日
- ② 場所 福井県立三国高等学校 会議室
- ③ 出席者 聖ドミニコ学園カリキュラムマネジャー 石川一郎 氏  
アーバンデザインセンター坂井 浜田 剛 氏  
三国高校校長 上山康一郎 三国高校教頭 富澤宏二  
三国高校事務局 藤田博雅 三国高校事務局 村 昭信  
三国高校事務局 藤田正人 三国高校事務局 堀 裕樹  
三国高校事務局 大岡幹生 三国高校事務局 勝山智央
- ④ 研究協議題 学校設定科目「三国の文化資源探究」について

(各委員より指導・助言、意見交換)

【石川氏】総合的な探究や文化資源探究をする上で困っていることはないか。

【大岡】2年生の文化資源探究では、これからどういう風にまとめていけばいいのか迷っている。

【堀】1年生の総合的な探究では、空き家の活性化事業を行っているが、目的から外れている点が目立ってきているので、どう目的に近づけて行けるかと思っている。今私のクラスは空き家でカフェをやろうとしているが、インスタ映えする物をつくったらいいのではという意見が出るだけで短絡的で飛躍し過ぎており、目的にマッチしていない。

【勝山】議会などにいろいろと提案をしてきたが、自分のものになっていない。提言では坂井市には良いところが一杯あると提案しながらも、本心はというと、将来は県外に出たいと思っている生徒もいて他人事のようなのである。

【石川氏】こういう活動は、準備も大変で何も収穫がない場合もあり、生徒も先生もストレスがたまる事が多い。こういうことは小学校・中学校からやってきていて総合疲れの状況も見られると思う。盛り上げるのは難しい。子供にとっては、「ああそうだね。だから何？」という感じを持つことが多い。大人はいろいろの地域を知っているから、「三国っていいな」って思えるけど、生徒は地元以外はほとんど知らない。どういう目標を設定するかが大事でむずかしい。大船渡高校では自分の中にあるものから広げている。堀先生、何か今浮ぶものはないか。

【堀】蟹ですかね。

【石川氏】蟹から解禁・生態・身のしまり具合、食べ方と広げられる。マインドマップ・構想マップを利用するといい。子供だとゲームから始めてもいい。子供自身に広がりを考えさせると良い。お仕着せの探究ではむずかしい。例えば特産品のカフェをとする。これが本当にいいことなのか考えさせる。自然が壊れるとかの負の側面も考えられる。自分がやって楽しいし、他人も幸せにできる。そういうプランが出てくるような問いをしてやるのが

いい。先生が先回りして考えられるものからピックアップして与えるのはダメである。

【勝山】いろいろ努力してUDCSと協働してやっている。しかし、きちんと収穫がでるようにはできず、関係のない話ばかりになってしまったりする。なかなかむずかしい。

【石川氏】探究する上で、課題設定・情報収集・整理分析・結果発表というプロセスがある。今の生徒はこれのどれが得意だと思うか。

【勝山】生徒も先生も発表するために一生懸命である。

【石川氏】今の生徒は、スマホなどでの情報の収集が容易であり、情報のアウトプットも得意である。

【大岡】ワークシートは書かせている。しかし、その量は少なくて絞ることもできない。

【石川氏】今の子供は整理分析する力が不足している。その力を付けるための工夫は、今は小中学校の教科書の中にもある。本日の文化資源探究の授業のねらいを説明して欲しい。

【大岡】三好達治の詩を取り上げ、三国の文学の詩を生徒に紹介し、理解してもらうことだ。

【浜田氏】三好達治の詩の深いところをもっと表現するような演出をできたらよかったと思う。

【大岡】子供は自分事になっていないと感じた。詩の深いところを理解していない。

【石川氏】三好達治は歳をとった人には深く感動を与えるが生徒は感動が少ない。なぜか。

【大岡】人生経験の長短が関係している。

【石川氏】知識と経験の浅い生徒は、感情をゆさぶられないし、共感している生徒は少ない。「昨日はどこにもありません」というフレーズがあったが堀先生はどう受け取ったか。

【堀】明日はきっと何かがあるというというのはどうか。

【石川氏】前向きな捉え方である。このフレーズを言語化するのは難しい。子供にとっては尚さら難しい。他の探究でもそうだが、とにかく吐き出しなさいということだ。小・中学校では、馬鹿なことは言わないという指導がされているが、あまり気にせず正直に考えさせることだ。その中で、生徒が安心・安全と思える雰囲気をつくることだ。

【浜田氏】生徒の様子を見ていると分かっているのかなと感じてしまうが、個々人のレポートを見ているとしっかりできているなどと思うことも多い。

【石川氏】考えをパソコンやスマホを使って共有することもいい。マインドマップをやっているか。

【大岡】マインドマップで発想を絞り出せるかもしれない。思考・判断することが大切である。どう思ったかが重要である。

【石川氏】「昨日はどこにもありません」というのは実にむずかしい。堀先生のように明るく前向きに考えてもいいし、解釈はいろいろでむずかしい。正解がない。一人一人が自分なりに解釈するものである。校歌をプロが歌ったが全然違う。生徒も感動をしていた。事前に、校歌や詩に関する動画をつくらせるとかもっと工夫があってもよかったのではないか。そこにこそ、この事業の目的であるコミュニティデザイナーとかシビックプライドにつながるのではないか。講師を呼んだときは、授業の前に一緒に授業に対するプランを練ることである。課題設定・情報収集・整理分析・結果発表というプロセスを踏んでいくことが大切である。ワークシートにも追体験できるような工夫が必要である。

【勝山】探究のサイクルを回すと、不十分ながらもすすめてしまうこともある。追体験できるように一味加えると歩留りも増えるのではないか。心が動いた瞬間をもう少し広げる必要がある。

【石川氏】大船渡高校も3年・4年たってやっと形になってきた。三国高校も頑張っていて欲しい。

## 6-4 運営指導委員会

- ① 日 時 令和3年12月14日（火）15:00～16:50
- ② 場 所 福井県立三国高等学校 会議室
- ③ 出席者 福井大学監事 峠岡伸行 氏 日本大学教授 松田淑子 氏  
共愛学園前橋国際大学 大森昭生 氏 坂井市教育長 川元利夫 氏  
高校教育課参事 大正公丹子 氏 高校教育課 前田周子 氏  
三国高校校長 上山康一郎 三国高校教頭 富澤宏二  
三国高校事務局 藤田博雅 三国高校事務局 村 昭信  
三国高校事務局 藤田正人 三国高校事務局 堀 裕樹  
三国高校事務局 大岡幹生 三国高校事務局 勝山智央

- ④ 進 行
- (1) 挨拶  
三国高等学校長  
教育庁高校教育課参事
- (2) 出席者紹介
- (3) 事業説明
- ① 本事業の研究概要について
- ② 実践校の取組みについて（三国高校）
- (a) 総合的な探究の時間（1年、2年、3年）
- (b) 学校設定科目
- (c) 地域探究同好会
- (4) 各委員より指導・助言、意見交換

（上山校長挨拶）

これまでの今年度の取組みの説明をするので忌憚のないご意見を伺いたい。

（大正参事挨拶）

三国高校は「あったらいいね」をカタチにする、コミュニティデザイナーを育てるという研究開発を目的としている。今日の1年生の発表を見て、三国の地域の問題を他人事ではなく自分事としてとらえ、当事者意識を持つようになっていけると感じる事ができた。2年生の文化資源探究という学校設定科目も地域に密着した取組みになっている。運営指導委員の皆様は、今日の発表・説明を聞き、生徒の変容を見ながら忌憚のないご意見をお願いしたい。来年度からは環境資源探究という新たな取組みも始まるが、当事者意識を持った人材が育成できる充実した研究開発になるように祈念する。

（各委員より指導・助言、意見交換）

【松田氏】先ほど1年生の空き家プロジェクトを見て、すごいと思った。空き家プロジェクトそのものが空き家問題と向き合い、地域ともかかわりを持つという、二重にくるまれていて精巧に作られているプロジェクトである。このような体験は高校生の体験として素晴らしい。

課題を発見して、その課題の解決案を考え、表現していけることはとてもいい。2年生につなげてどんどんブラッシュアップして行って欲しい。

先ほど2年の担任4人がこういうことが好きなのでとおっしゃっていたが、その先生達の熱量が生徒さんにも移ってどんどん実現していくことが想像できた。坂井市の職員の皆さんにも複数回に渡り、たくさん来ていただいてアドバイスをもらっている。2年生でブラッシュアップしたものを3年生で自分の将来につなげて行って、自分事として落とし込んでいる。このコロナ禍でプランを練り、よく生徒さんを導いてきたと思う。

今年度からボリュームのある三国の文化資源探究が始まり、地域の方を巻き込んで展開をしている。学校の介入、生徒の事前学習が足りなかったのではないかと言っていたが、会議等で忙しい中ではあるが、生徒のモチベーションを育てることを練ることが大事である。それを実現できればより良い活動にできるのではないか。

**【大森氏】** 今日、町の中で1年生のチャレンジを知らん振りをするのではなく2、3年生の生徒さんも見に来ていて、それが素晴らしいと思った。町の中に子供がいるだけで絵になる、うれしい風景だった。活動の成果も上がるだろう。1回目は誰かに誘われていくが、興味を持たば2回目からは自分で行ける。町へふらっと行ける感覚を持つための後押しをして欲しい。町にとっての効果は大きいものだと思った。地域の空き家をベースにしながら、三国の地域の活性化をどうしたらいいか、つたないながらも自分たちで調べた中から課題を見つけ、その中にSDGsもくっつけていて、グローバル的な思考ができていく。空き家から出発して地球規模のトレンドをぶつけてくるのは素晴らしい。うまく素材を活用していると受け止めた。

2年生の報告より、市役所の若手の職員が、生徒がアイデアを考えるところから入ってくるのはいいことだ。若手職員なのでナナメな関係になっている。ナナメな関係の人が入ると緊張感がありながらもいろいろ言い合える。生徒にとっても「役所の人か」と思ったら緊張感があるし面白く、キャリアを考えることにもなる。いいことだと思う。昨年度からプレゼン力が弱いので、そこを向上できるように先生が何回もダメ出しをして意識的に指導してきたとあった。生きて行く術として大事で必要な力なので、先生が、がつつり指導を入れたほうがいいということを実践している。自分たちのプレゼンを毎回録画して、それを見て自分たちがそれだけ成長したかを見ていけるといい。アーカイブ的に記録するといいい。

3年生になって振り返りとなっているが、昨年のコミュニティデザイナーの認定の件はどうなっているか。

**【校長】** 活動が行えないところもあり、それは暗礁に乗り上げている。

**【大森氏】** コミュニティデザイナーの意義や基準を設定しないと評価ができない部分がある。学校要覧に三国高校が目指す教育目標が明確に書いてある。コミュニティデザイナーの資格がこの目標に合致しているのではないか。3年生になってから学校目標のような人物になれたかを問えばいい。自分たちがそれを説明できればいい。探究をしたことで生き方が変わったと言えればいい。学校目標の4つ目標に合致した人材になれたか、どう生きたいかをはっきり語れるようになればいい。学校目標をループリックにするのもいい。1年生でレベル1、2年生でレベル2、3年生でレベル3と各学年で振り返りをして、4つの目標に沿った作文

を課し、レベル2を取れば与えればいいのではないか。私の大学には入学しなかったが、ビジネスプランを学ぶうちに環境に興味を持ち、大学はその方面に進んだ高校生もいる。自分は文化に詳しいなど得意分野ができればいい。学校目標のような人物を目指す。だから空き家活動をするというのを最初に提示すればよい。

【川元氏】今、坂井市が抱えている空き家問題、SDGs、若手職員をどう育てるかを3つも関わってくれているのがうれしい。高校生たちが幼いながらも自分たちで回りを見て、問題を見つけて解決していこうというのはいいことだと思う。坂井市の職員採用で高校生も採用しているが、高校でやってきたことが生きている。三国の文化資源探究で三国祭のことを取り上げて地域の人を呼んで講演会をしていたが、この人たちはみんな三国祭の専門家。みんな三国を支えている。その人たちと出会い、学び、成長していく。ふるさとを自分の糧、誇りとして他人に語るができるようになって欲しい。坂井市はイギリスのウェールズと交流している。ウェールズの生徒さんはウェールズを最高の誇りとしている。坂井市としても、これからも応援していきたい。

【峠岡氏】1年生の活動の中で地域の産業を取り上げてくれたのがありがたい。仕事がないと住み続けられない。この事業を通してコミュニティだけでなく産業も取り上げて欲しい。コミュニティデザイナーの問題は、私は気付きが足りないと思う。気付きの意識を持ち続けられる生徒が生まれればいい。気付いたことを考えて実験して、またそこから気付いて実験を繰り返すことができれば、社会の中で活躍する人材になる。なにもPDCAでなくてもいいと思う。

【校長】気付きを増やすためには何が大事か。

【峠岡氏】いろいろな所に出かけて、例えばご飯を食べておいしいやまずいと感じる。なぜおいしいかまずいかを考える。考えないと気付かない。感じたことを考えさせる。表現させること。いろいろなことを体験して学校へ戻って考えて気付く。ただし、生徒だけでは足りない。気付く、考える癖をつける。これからは答えのない世界になっていく。探究する力が大切である。自分で道を見つけないといけない。コミュニティデザイナーの資格は、気付きを続けられるような気持ちを持ち続ける人に相応しい。

【大森氏】気付きの大元はインプット。いろいろなところに行って体験することが大切である。文化資源探究みたいに地域の人のお話を半年くらいひたすら聞き続けるのもいい。地域の人もそういうことを考えているのかと考えるきっかけになる。他校との交流、他県との交流。他校、他県でこういう活動をしているのを見つつ発表も聞いてコメントをする。コメントするとなると必死になって見るから気付きがある。

【校長】1学期は講演が続き、講演疲れがでていたという話題があったが生徒の様子はどうだったか。

【大岡氏】モチベーションが続かない。ずっと話を聞くのは苦しそうだった。

【大森氏】 45分話を聞いて残り45分は質問を考えさせて質問させるというような工夫が欲しい。

【大岡氏】 ONOメモリアルは良い流れだった。今回は解説を聞いてから見に行く形式だったが、見てから解説もいいのではないか。

【松田氏】 例えば美術の時間で作家と絵のどちらを先に見るか。私だったら絵を見たときに感動してから作家を調べるがどちらでもいいのかもしれない。人によるかもしれない。理屈から入る子もいるし、感性からの子もいる。一概には言えないが、ダメだったとしてもダメを楽しめばいい。教科の学習ほどああしなさいとこうしなさいというのは決めなくていいのかもしれない。先生も楽しめばいい。

【大岡】 北前船の時、インプットは教員がした。ただの授業だったが、生徒にとってはそれが良かったと言っていた。教員は話をするだけでなく、生徒の様子を見ながら話を考えることができる。講演会ではメモを取りながら聞いていた。生徒は三国の子なので、講演する人が知り合いの近所のおじさんだから聞かないという気持ちにもなっていたようだ。

【大森氏】 教員なら45分引きつけられるように話をするが、地域のプロは授業のプロではないので語りが上手でない人もいる。しかし、思いは熱いので、タブレットを開きながらアンケートや質問を挟みつつ行ったり工夫をする必要がある。

【松田氏】 大学で教育新聞を教材にしたら、学生が「新聞はつまらない」という。今の学生は一つ興味を持ったらタブレットでどんどん調べていく。新聞のここに書いてあるということだけでは狭いと感じている。講演などで興味があることが出てきても、手元にタブレットがないと調べたいと思っても調べられないから飽きてしまう。高校生の学び方が変わってきている。話を聞きながら調べたい。それでこそ質問が出るのではないか。地域の方もはじめは下手かもしれないけれど、生徒の様子を見て気になるようになり、どんどん上手になってくる。地域の人も育つ機会にもなっているのだから、子供と地域の人が一緒に学ぶ場として気長に待つといい。

【大森氏】 ある学校に講演に行ったらタブレットを持ってきていない。先生に聞くと持たせると顔を見て話を聞かないからだということであった。顔を見て話を聞かなくてもいいから、タブレットを持ってこさせればいいと思う。

【校長】 生徒に学校目標の4つの項目で作文が書けるか。

【勝山】 今年はやらないかもしれない。ただ毎年何かを書かせることはできる。今年「三国高校3年間を通じて」ということで書かせている。

【大森氏】 先生にとっては大きなプロジェクトでも生徒にとっては高校生活の一部でしか

い。毎年度、学年末にタブレットに書き留めておくのでもいい。500字くらいで、1年の時の自分、2年の時の自分、3年の時の自分を振り返るといい。3年間を振り返っての作文ではなく、教育目標を示しながら、生徒に振り返ってくれと書かせるといい。

**【松田氏】** この教育目標はこの通りコミュニティデザイナーにつながる。3年生で1，2年で書いたことを振り返らせる。メタ認知だと思うのですごく良いことである。

## 6-5 地域協働プロジェクト推進室会議Ⅳ

- ① 日 時 令和4年1月11日(火)
- ② 場 所 福井県立三国高等学校 会議室
- ③ 出席者 共愛学園前橋国際大学 大森昭生 氏 (オンライン出席)
- |         |       |         |      |
|---------|-------|---------|------|
| 三国高校校長  | 上山康一郎 | 三国高校教頭  | 富澤宏二 |
| 三国高校事務局 | 村 昭信  | 三国高校事務局 | 藤田正人 |
| 三国高校事務局 | 藤田博雅  | 三国高校事務局 | 堀 裕樹 |
| 三国高校事務局 | 大岡幹生  | 三国高校事務局 | 勝山智央 |
- ④ 研究協議会 コミュニティデザイナーについて

(大森氏より評価の考え方についての説明)

(勝山より本校の3年生に対する評価に関する考え方の説明)

(各委員より指導・助言、意見交換)

【大森氏】挑むをルーブリックの項目に入れることは難しい。初めての出来事に挑むという項目に生徒に対して達成のレベルを問うというのは難しい。究・挑・結・愛と4つの教育目標をすべてルーブリックに載せる必要はないのではないかと。別のものに考えてもいいと思う。

ル

ーブリックにすべて入れなくてもいいのではないかと。

【勝山】総合的な探究の時間の内容を踏まえて大岡先生とともに考えてきたものだ。細かくすると大変なので、教育目標の究・挑・結・愛という4つの項目に絞って考えた。

【大森氏】すべての学びは目標に向かって考えていく力が大切である。文科省の指導では、大学のディプロマポリシーの作成の指針は「何々ができる」という表現にしるということになっている。可視化できないものはダメだそうだ。我が大学は、可視化はむずかしいので指針をつくっている。レベル4に行かないとダメとするとか、レベル2までは全員行かないとダメとするかなど、ある程度の基準を設ける必要がある。共愛学園前橋国際大学ではレベル2に行くようにしている。レーダーチャートはいびつになるのだが仕方がない。レベル4は学年で何人かという使い方もある。

【大岡】ルーブリックは勝山先生がつくった目指す生徒像をもとに私がつくった。レベル4に目指す生徒像を入れた。これに向けてレベル1～3をつくった。レベル1・2が1年生、レベル3が2年生、レベル4に行ったらコミュニティデザイナーという思いでつくってみた。挑・愛の部分は除いたほうがいいのかもかもしれない。

【大森氏】ルーブリックを実際に生徒に向けてやってみたのか。

【大岡】まだ、やってみてはいない。

【大森氏】ルーブリックを未完成の状態のままやるのは生徒にとってはかわいそうかもしれないが、とりあえずやってみて、その後で表現を変えてみるとかして進化させていけばいいのではないか。ルーブリックというのは時間と共に、いろいろ変化していくものである。

【大岡】ルーブリックに項目として難しいものは文章で書かせようと思う。どういうふうに考えているかも書かせたいと思う。

【大森氏】ルーブリックでも例えば、生徒がレベル3と評価したとするとどうしてレベル3なのかを書かせるといいだろう。

【勝山】共愛学園前橋国際大学では自己評価したルーブリックを基に個別面談をしているということだが、どのようにしているのか。

【大森氏】個人面談のやり方については、大体はそれぞれの先生に任せている。そういう対面で話し合う時間を持つことが大事だと考えている。例えば、先生から見てプレゼンがよくできていると思うが、学生自身はあまりできていないと評価している場合、その差について話し合うことは有意義である。先生も忙しくて時間がないので1人当たり10分程度である。しかし、少しでもそういう時間を持つことは大事である。360°の評価は難しい。しかし180°位は評価できるようにしたいと思っている。

# 福井県立三国高等学校 高等学校教育改革推進事業(地域魅力型)

## 【事業の概要】

福井県教育委員会・福井県立三国高等学校

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)

「あったらいいね」をカタチにする！～シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる～

### 【研究開発の目的】

地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成する実践的な探究学習のためのカリキュラムを開発する。

### 【本事業における具体的な取組み】

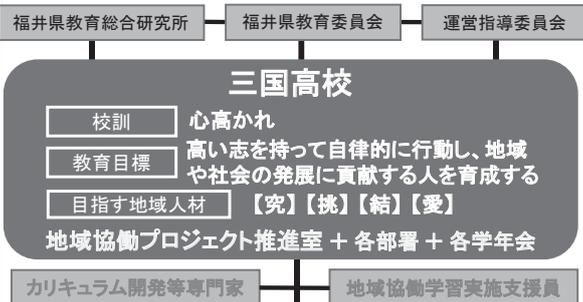
- 『三高地域魅力化プロジェクト』を推進  
三国高校生が地域人材と協働して、地域活性化のために活動
- 地域協働協議会『ワクワク未来考場』の実施  
コンソーシアム関係者、地域住民、中学生等と三国高校生が地域の未来について懇談 <例>子供向け『海の授業』の企画など
- 『三高高校コミュニティデザイナー』の資格認定  
三高地域魅力化プロジェクトの取組み成果に応じて認定  
コンソーシアム・地域内の大学・企業等に資格の内容を周知し、進学・就職の際に評価  
坂井市に『坂井市民コミュニティデザイナー』の創設を提案
- 学校設定教科『三国地域学』の開設  
『三国の文化資源探究』『三国の環境資源探究』で地域をテーマにした発展的な探究学習を実施  
地域ボランティアや地域行事等への参加を「学校外活動」として単位認定



地域探究フィールドワーク



坂井市民文化祭(書道部)



ふるさとや自分が暮らす地域に対する誇り・愛着  
次世代の地域の担い手に必要な資質・能力を育成

### 【各学年における探究学習の主な流れ】



【AARサイクル(見直し⇒実践⇒振り返り)で育てたい力】

- 〇生きて働く知識・技能
- 〇学んだことを社会に活かす力
- 〇多様な人との協力
- 〇困難に立ち向かう勇気と信念
- 〇答えの定まらない問いに対応する思考力・判断力・表現力

- 既存のものに新しい価値を見いだし、
- 今までの常識にとらわれない新たな活用法を提案し、
- 地域の人々との行動で地域に幸せや希望をもたらすイノベーション人材を育成



三国温泉ゆあぼーとの看板(美術部デザイン)

令和3年度の生徒数 (本事業は全校生徒対象)	学科	1年	2年	3年	計
	普通科	136	131	146	413

## 三高地域魅力化プロジェクト～総合的な探究の時間の取り組み～

### 1年生『空き家活用プロジェクト』

三国町の空き家を活用して、地域を活性化する活動を企画・運営します。

1学年4クラスがそれぞれ空き家を担当し、高校生自らが空き家の活用法を考え、「空き家をつかったイベント」を提案し、実践しています。

「モッコ刺し体験」「三国祭り体験」「クラフトペーパー」「昔遊び体験」等



### 2年生『三高地域魅力化プロジェクト発表会』

1年次に行ったプロジェクト学習のサイクルを発展させ、三国地区や坂井市、福井県と地域を広げ、地域の課題解決に向けたアイデアを提言として、坂井市議会議員および坂井市役所職員に向けてプレゼンテーションを行い、その後、提言書を作成します。





中学生のみなさん、こんにちは。爽やかな季節になりました。三国高校では、1学期の中間考査も終わり、今は春季高校総体や北信越大会に向けて部活動の練習に取り組んでいます。

## 総合的な探求の時間始まる！ 4.13

### 1年生 町家プロジェクトガイダンス

今年度の総合的な探求の時間が13日(火)から始まりました。1年生は「高校生活を考える」というテーマのもと、地域の空き家を活用についてのガイダンスを行いました。

### 2年生 地域の課題を研究

2年生は、地域の課題を研究し、市議会の方々に発表するという目標の確認を行いました。

#### 【スケジュール】

- 1学期は個人で気になる課題を見つけ、問題点を調査し、地域のいろいろな人の意見を参考にして課題解決策を具体的に考える。
- 2学期は個々人のレポートをグループで共有し、より発展的な提言をまとめ、地域の大人の方を招いて、発表会を実施する。
- 3学期には、坂井市の議員を招いて、課題解決のための提言についてのアドバイスを受ける。



## 2年生文系クラスで、学校設定教科「三国地域学」始動 4/16

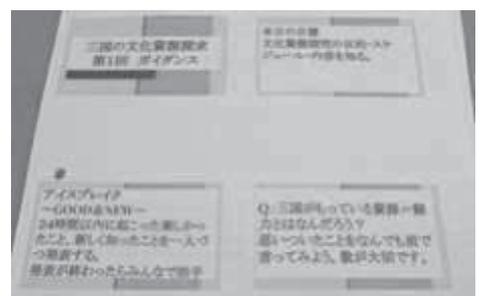
「文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の一環として、今年から開設された授業です。地域との協働を進めながら学んでいきます。当日は、ガイダンスということで2クラス合同でしたが、密を避けて体育館で実施しました。タブレットも活用して、地域の特徴についてグループで話し合いながら、今年度の学習の計画についてレクチャー受けました。



タブレットでグループの意見を集約



プロジェクターで意見を共有



## 吹奏楽部パフォーマンス 4.12

4月12日(月)の昼休みに吹奏楽部が中庭でパフォーマンスを披露しました。最新曲のメドレーを演奏して、全校生にアピールしました。天気にも恵まれ、楽しいお昼を提供してくれました。



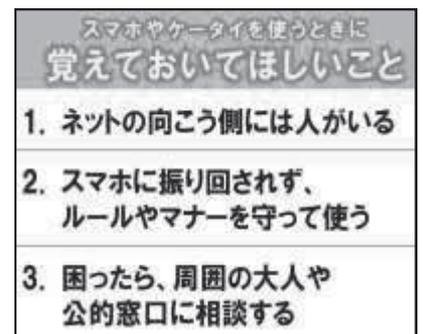
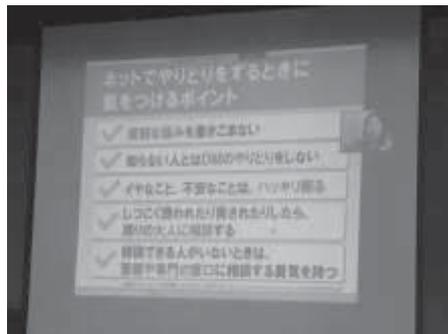
## 安島モッコ刺し講演会 4.26

三国高校では、昨年度より三国町の伝統文化である「安島モッコ刺し」を学んできました。講演会や実技講習会、みくに龍翔館への見学などを通し、少しずつ理解を深めてきました。そして、今年10月30日(土)～11月31日(火) ONOメモリアル美術館にて坂井市教育委員会主催で三国高校現代刺子展を開催することになりました。今日は、「服飾文化」の受講生22名が安島モッコの会の方による講演と実技講習を受けました。刺し子が誕生した経緯や北前船との関連について、分かりやすく説明していただきました。



## 1年情報モラル講演会の実施 5.6

1年生を対象に情報モラル講演会をオンラインで実施しました。講師のNTTドコモスマホ・ケータイ安全教室インストラクターの渡辺英美さんに、実際に起こった事案の動画を交えながら、丁寧に講演をしていただきました。生徒は、ネットでやり取りするときに気をつけるポイントなどSNS利用に関する情報モラルについて理解を深めました。





中学生のみなさん、こんにちは。初夏ような日が続きますね。三国高校では、自分の将来について考えるために各学年で進路に対するガイダンスを行いました。

## 進路ガイダンス 5.15

新型コロナウイルス感染防止のため、進路ガイダンスは、2、3年大学短大進路講話・専門学校説明会はオンラインのZoomによって、1年進路講演会は収録されたビデオ視聴、就職説明会は少人数での対面による説明会で行いました。

### 【1年進路講演会、2・3年大学短大進路講話】

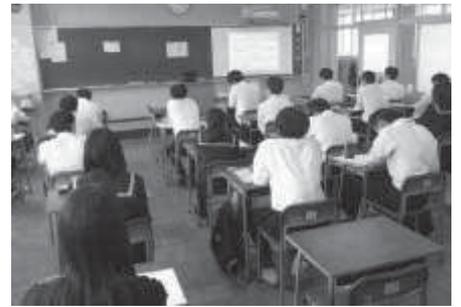
1年進路講演会では、「高校3年間の過ごし方」のテーマで、主体的な進路選択を行うために大切にすべきこと、が話されました。2・3年大学短大進路講話では、志望校を決めるまでの過程・気持ちの持ち方や入試の具体的な対策の説明がありました。



1年進路講演会



2・3年大学短大進路講話



各教室でオンライン視聴

### 【2・3年専門学校説明会】

2年専門学校説明会では専門学校の特徴を分かりやすく説明していただきました。3年専門学校説明会では、各自がタブレットで直接希望した2つの分野の説明を各専門学校の講師の方から聞きました。画面上ではありますが、資料を見ながら説明を聞き、質問をして、専門学校の検討をしていました。



2年専門学校説明会(オンライン)



一人ひとりがタブレットでのZoomによる説明会



### 【2・3年就職説明会】

2、3年就職説明会では、就職担当の先生から、昨年の就職の状況や職場見学や書類作成など、採用までの手順・流れについての説明がありました。



## 三国祭山車曳き！ 5.20

2年ぶりの山車巡行となった三国祭で、三国高校の地域探究同好会および有志の生徒19名が山車曳きに参加しました。約6時間、雨の中を練り歩きました。三国祭保存振興会の石丸博巳会長から感謝のお言葉をいただきました。



## OPEN-AIR音楽祭！ 5.23

OPEN-AIR音楽祭が、三国湊きたまえ通り(旧森田銀行隣接広場)で開催され、三国中学校や地元音楽活動団体にまじり、三国高校吹奏楽部も参加しました。三国旧市街地において、観光客のまち歩きを促すために毎月第3日曜日が「レトロの日」とされており、地域活性化に役立てようと企画された音楽祭です。当日は三国高校吹奏楽部の数あるレパトリーの中から「三国節」「バードランド」などを披露しました。



## OKAMOCHIコンテスト準大賞！ 5.30

5月30日(日)福井県産業会館にて福井県プロジェクト実行委員会主催、OKAMOCHIデザインコンテスト決勝ラウンドが開催され、デザイン部門171点の中から選ばれた5名が出場。本校からは3年板垣紗知さんと2年近藤祐加さんの2名が出場しました。デザインのネーミングとコンセプト、アピールポイントのほか、海洋ごみ問題に対する思いなどを盛り込み、落ち着いたプレゼンテーションが出来ました。板垣さんは準大賞を、近藤さんは審査員特別賞を受賞しました。





中学生のみなさん、こんにちは。梅雨空が続きますね。三国高校では、1学期の期末考査も終了し三高生は、夏の大会に向けての部活動や自分の進路希望実現に向けての学習などに取り組んでいます。1学期の学校生活の様子をお知らせします。

## 1年生 総合的な探究の時間 「三国まち歩き」 6.1

6月1日(火)、「総合的な探究の時間」に1年生が三国の町並みを歩き、地域について学習を深めました。三国の町並みや空き家の現状などから、三国の魅力と課題を学び取り、今後の活動につなげていきます。快晴の中、約2時間半をかけて、旧森田銀行周辺の空き家をうまく活用した物件が多い地域、三国神社方面の空き家の活用ができていない地域、細い路地など普段通らないような地域をめぐりました。

5か所のチェックポイント（アーバンデザインセンター坂井 [UDCS]、んだこ [安島弁で「我が家」という意味]、兼田家、みくにの家、マチノクラ・マチノニワ）がもうけられ、UDCSスタッフや地域住民の方からお話をうかがいました。



【アーバンデザインセンター坂井 (UDCS)】  
地域課題を解決するためのまちづくりを推進する拠点



【んだこ】  
江戸時代に建てられた築100年以上の町家を改修したゲストハウスが間もなくオープン



【兼田家】  
元骨董品屋さん 今年の空き家プロジェクトの会場！



【みくにの家】  
古民家を改修したゲストハウス



【マチノクラ・マチノニワ】  
東京大学、福井大学の学生が中心になって設計した公園とミニ資料館



【三国湊座】三国湊街中散策の案内所・食堂・甘味処としての休憩所 地元の食材を活かした「三国バーガー」が有名

## 東京2020オリンピック聖火リレー参加 6.3

5月29日(土)に実施された2020東京オリンピック聖火リレーに参加した本校1年生の網田さんが、その時の聖火トーチを持って、校長先生に報告してくれました。本人は「当日は緊張しましたが、とても楽しかったです。一生の記念になりました」と語ってくれました。めったにできる経験ではないので、これを今後活かして欲しいと思います。



## 春季高等学校総合体育大会等 伝達表彰 6.9

県内各地で行われた春季高等学校総合体育大会などで入賞した生徒のみさんの伝達表彰を実施しました。感染症対策をとって表彰の様子をオンラインで教室に配信しました。上位大会へ向けて上位大会へ向けて練習に励んでほしいと激励しました。



### 〔令和3年度 福井県高等学校春季総合体育大会〕

#### 【ヨット競技】

男子団体 優勝 三国高校 女子団体 優勝 三国高校

男子シングルハンダー級 第1位 斉藤玲也 (インターハイ出場)

女子シングルハンダー級 第1位 山口里真 (インターハイ出場)

#### 【柔道競技】

女子個人戦48kg級 準優勝 佐野幸風 (北信越大会出場)

## 県ふるさと文学館訪問 6.12

三国高校の校歌を作曲した三好達治の草稿が展示されているということで、地域探求同好会の2人の生徒が県ふるさと文学館へ見学に行ってきました。今回、ふるさと文学館の「新収蔵品展」ということで、三好達治をはじめ、福井県にゆかりのある文学者の記念となる品が多く展示されていました。中でも校歌の草稿は、現在の校歌と異なる部分もかなりあり、三好の校歌制作の苦悩のあとが見えつつ、今の校歌の歌詞と一致する所は、ほぼ墨で書かれていて、大変興味深いものでした。その他の作家についても学芸員の方に詳しく説明していただき、地元の文学について学ぶことができました。(写真は「ふるさと文学館」の特別な許可を得て撮影させていただきました。)





中学生のみなさん、こんにちは。1学期後半の学校生活の様子をお知らせします。

## 2年生 学校設定科目 文化資源探究 「三国の食:らっきょう」 6.18

6月18日(金)、本校2年3, 4組の「文化資源探究」受講生徒71名が、「三国の食・物産」を題材として三年子らっきょうについて、三里浜特産農業協同組合長による講演を聞き、生産現場の見学、収穫体験を行いました。講演では、三里浜がらっきょう栽培に適した風土であること、全国唯一無二の三年掘りらっきょうであることなど多くのことを学ぶことができました。収穫体験や根切体験では、丁寧に教えていただきながら根切りを体験しました。加工場見学では、土付きで入荷されたらっきょうを「洗浄⇒塩漬け⇒脱塩⇒甘酢漬け⇒袋詰め」するまでの工程を見せていただきました。

植え付けから流通に至るまでの過程において、時間だけでなく多くの人の手も加わることがわかり、三里浜のらっきょう生産者の方の仕事への誇りと商品の魅力について知ることができました。



らっきょうの  
根切り体験



土付きらっきょう



加工場見学

## OPEN-AIR音楽祭 Vol.2 6.20

今年2回目のOPEN-AIR音楽祭が、三国湊きたまえ通り(旧森田銀行隣接広場)で開催され、地元音楽活動団体のトップバッターとして、三国高校吹奏楽部が出演しました。三国旧市街地において、観光客のまち歩きを促すために毎月第3日曜日が「レトロの日」とされており、地域活性化に役立てようと企画された音楽祭です。三国高校吹奏楽部の数あるレパートリーの中から「川の流れのように」、人気KポップバンドBTSの「ダイナマイト」、「三国節」などを披露しました。



## 地域の担い手づくりプログラム 6.17

1年生の総合の時間にアズAS☆（あわら坂井ふるさと創造推進協議会）の方々が、地域の企業や地域について知ってもらおうと、「アズAS☆ × 地域（まち）の担い手づくりプログラム」1年生を対象に実施してくださいました。地域の製造業、旅館、観光、福祉、学習塾、ネット通販など25社の方々が講師としてお集まりくださいました。

各班1人の講師の方がつき、インタビューを交えながら講師の方の企業についてグループトークをしました。生徒たちはメモを取りながら熱心に話を聞き、質問をしていました。その後、班ごとに聞き取った内容をまとめて発表しました。

地元にも様々な素晴らしい職業があることを確認できた時間でした。



## 夏季壮行会 7.6

夏の県大会がある野球部、各種コンクール県予選に出場する吹奏楽部と、全国大会への出場を決めたかるた部（全国総合文化祭）・ヨット部（全国高校総体）に、PTA会長 栗原様、同窓会会長 大和様からも激励の言葉やスポーツドリンク等をいただきました。出場選手から大会やコンクールへの意気込みを語ってもらいました。



## 大学公開講座 7.12

7月12日(月)、大学公開講座が行われました。2年生全員、3年生の希望者 約160名が希望した講座に分かれて大学教員の講義を受けました。研究内容とその意義、学問としての楽しさなどを講義していただきました。

高校で学習する内容を基礎基本にして発展する研究内容、研究は自分たちの身の回りでも活かされているということに興味を持って聞いていました。





中学生のみなさん、こんにちは。夏休み中のイベントや学校生活の様子をお知らせします。

## 三国高校オープンスクール実施 7.30

オープンスクールに多数のご参加ありがとうございました。今回、生徒実行委員会を中心に企画・運営を行いました。不手際、行き届かない面もあったかと思いますが、ありのままの三国高校を体験していただけたと思います。今後、進路を考える際に、本日体験したことをふまえて、選択して下さい。みなさまとまた来年お会いできることを期待しています。



生徒座談会



校内案内



部活動見学



部活動見学



保護者座談会



保護者座談会

## 中部日本吹奏楽コンクール県大会 県代表金賞 北陸吹奏楽コンクール 代表金賞(東日本大会出場)

中部日本吹奏楽コンクール県大会が県立音楽堂ハーモニーホールふくいで行われ、三国高校吹奏楽部は金賞を受賞し、福井県代表として10月に浜松市で開催される中部日本吹奏楽コンクール本大会に出場します。

北陸吹奏楽コンクールが金沢歌劇座で行われ、福井県代表の三国高校吹奏楽部は、見事金賞を受賞し、北陸代表として小編成の全国大会である東日本中学校吹奏楽大会に出場します。(3年ぶり5回目)



## オンライン夏季補習 8.17

県の緊急事態宣言を受け、8月17日からの3年生の夏季補習はオンラインで実施しました。前半の補習を終えたときに、タブレットを自宅へ持って帰ってもらい、備えてもらいました。GoogleMeetを利用し、遠隔での補習を実施しましたが、2学期からの「もしも」にも対応できるようにしたいと考えています。



## 学校祭準備始まる 8.25

全校登校日から、学校祭の準備が始まっています。登校日が昨年より遅くなり、活動日が減りました。県の非常事態宣言の中、感染症対策を取りながら、限られた日数ではありますが、生徒のみなさんは精一杯の準備を頑張っています。なんとか学校の活動が継続できるよう、一人ひとりが意識を高めるよう呼びかけています。

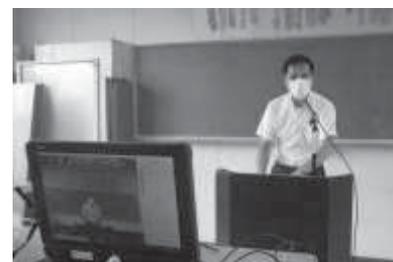


## 2学期始業式 8.30

2学期のスタート。始業式は全学年各教室にてオンラインで実施。  
夏休み中の伝達表彰。

【吹奏楽部】福井県吹奏楽コンクール 県代表金賞、北陸吹奏楽コンクール 北陸代表金賞 【ヨット部】県民スポーツ祭 優勝者6名  
【かるた部】村上さん、全国高等学校総合文化祭 奨励賞  
【ソフトボール】福井県チームに2名参加 北信越国体 優勝

以上が表彰報告されました。





中学生の皆さん、こんにちは。朝夕はめっきり涼しくなり、虫の音に秋の気配を感じられるころになりました。2学期の始めに行われた学校祭や学校生活の様子をお知らせします。

## 三国高校学校祭 第1日目文化祭 9.1 (三国町体育館)

今年の学校祭のテーマは「infinity ～あふれる才能の大盤振る舞い～」。生徒の皆さんの無限の様々な才能を結集しての学校祭を楽しみました。

学校祭第1日目は文化祭です。今年の午前中は三国町体育館を会場に、いろいろな企画、琴部、吹奏楽部、書道部の舞台発表です。2・3年生はフロアで、1年生はギャラリーからの観覧でした。午後からは、学校で文化部の展示や各色のアトラクションを楽しみました。



## 三国高校学校祭 第2日目体育祭 9.3

学校祭第2日目は体育祭です。秋晴れとはなりませんでしたが、体育祭の競技、各色の応援とデコ（つくりもの）の発表を行うことができました。学年リレー、綱引き、タイや取りなどの定番の種目や、ユニフォームやラケット・ボールを持つての各部対抗リレーや移動玉入れ等の種目で、大いに盛り上がりました。



## ひと声掛け挨拶運動週間 9.8～9.10

夏休み・学校祭が終わり、本格的に新しい学期が始まる時期に、PTAの方々が朝の登校時に「ひと声掛け挨拶運動」を実施しました。朝から校内に活気があふれました。



## 令和感覚 三国節歌詞 最優秀賞・優秀賞受賞 9.14

坂井市指定無形民俗文化財の「三国節」に令和の時代にふさわしい新たな歌詞を作ろうと、みくに地区まちづくり協議会は6月から歌詞を募集していました。高校生部門で、三国高校2年の塚本さんが最優秀賞、西坂さんが優秀賞を受賞し、表彰状と記念品をみくに地区まちづくり協議会の谷川様からいただきました。

【最優秀賞】「よいさよいやさ 波かき分ける 想い背負った エッセル堤」

【優秀賞】 「三国花火の 明るい火玉 人の心も 打ち上がる」



## 吹奏楽部が全国大会に出場！

### 【中部日本吹奏楽コンクール本大会】

日時：10月2日（土） 出番4番 10：18

場所：アクトシティ浜松大ホール（浜松市）

「文部科学大臣賞を目標に頑張ります！」

### 【東日本学校吹奏楽大会】

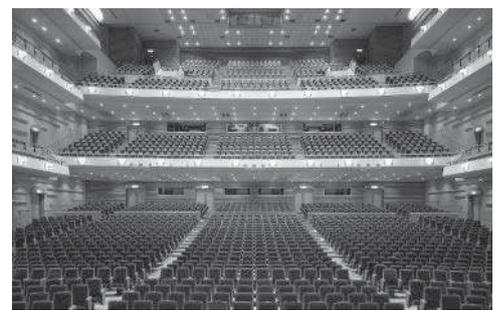
日時：10月10日（日） 出番16番 16：41

場所：札幌コンサートホールKitara（札幌市）

「小編成部門の全国大会です。

初めての北海道遠征です。」

吹奏楽部PR動画



【アクトシティ浜松大ホール】



【札幌コンサートホールKitara】



中学生の皆さん、こんにちは。一段と日が暮れるのが早くなり、朝晩の冷え込みが晩秋の訪れを感じさせてくれますね。行事や校外の活動が多い2学期の学校生活の様子をお知らせします。

## 丸岡城「月待の宴」始まる！ 行灯(あんどん)点灯式 10.1

丸岡城にて誘客イベント「月待の宴」が始まり、10月1日(金)夕方、点灯式が行われました。これらの行灯は一筆啓上賞の作品をモチーフにしており、三国高校の書道部が揮毫した行灯も点灯されています。点灯式には書道部生徒2人が参加しました。行灯は11月30日まで毎日点灯されます。



## 吹奏楽部、全国大会「銀賞」受賞！ 10.10

10月10日に札幌コンサートホールKitara(札幌市)で開催された、小編成の全国大会である『東日本学校吹奏楽大会』に北陸代表として出場し、みごと銀賞を受賞しました。たくさんの応援ありがとうございました。

中学生の皆さん、三国高校で吹奏楽しませんか？ 一緒に全国大会に行きましょう。初心者の方も大歓迎です。



## 松島水族館職員による特別授業 10.4 & 10.14

10月4日(月)、3年1・2組の生物の授業で越前松島水族館の鈴木隆史館長による水族館授業が行われました。「水族館における海洋生物の調査保護や繁殖活動」というテーマで水族館の役割や越前松島水族館における調査保護活動や繁殖活動について、環境問題にも触れながらお話をいただきました。

10月14日には、普段は見られない水族館の裏側を見学しました。床がガラス張りの「さんごの海」水槽の裏側を見学し濾過装置についての解説や飼育管理センター施設の解説を受けたりしました。また、コンペイトウ・マンボウ、ミズタコ、クラゲ・淡水魚とそれぞれ説明や飼育の苦労などのくわしいお話しをお聞きし、生物の知識を深めるとともに、その不思議さに感動しました。



## Happy Halloween 10.15

三国地域まちづくり協議会が、地域の小学生を対象にハロウィンイベントを開催し、本校地域探究同好会もお手伝いに参加しました。受付や各ポイントの店番などですが、ハロウィンらしく仮装して臨んだ生徒もいます。参加した小学生にも仮装した子がいて、会場となった本町界隈は一気にハロウィンムードが高まっていました。



## 吉野家の庭リ/バージョン 10.18

三国高校がお借りしている空き家「吉野家」の庭を地域探究同好会の生徒が改修しました。生徒たちが案を立て、まず除草や樹木の伐採をして、防草シートを敷き詰めてから砂利で覆いました。今後、一般の方にも公開したいと思っています。その際には是非立ち寄ってください。



## 三国高校現代刺子展「北前船が生んだ 安島モッコ刺し」開催のお知らせ

家庭クラブでは、昨年度より地域文化の理解や伝承を目的に活動をしてきました。その活動の成果となる刺子展を開催します。活動に協力してくれた生徒のべ300名の作品をアートディレクターとしてご活躍の戸田正寿氏にインスタレーションしていただき、会場に展示します。北前船をイメージした高校生ならではの自由でおもしろい作品もあれば、心を込めて一針一針刺した愛情いっぱいの作品もあります。どうぞ会場で作品を見てください。

会期：10月30日（土）～11月28日（日）会場：ONOメモリアル





中学生の皆さん、こんにちは。落ち葉が木枯らしに吹き飛ばされ、朝晩の冷え込みも一層厳しくなってきました。11月の学校生活の様子をお知らせします。

## ビブリオバトル 11.03

県立図書館で県内の高校生がお勧めの本を紹介し合う「ビブリオバトル」が開催されました。県内16校から選抜された生徒たちがお気に入りの小説やノンフィクションを手に、5分間であらすじや感想など熱弁をふるい、約50人の観客の質問にも答えていました。そして、観客は読みたくなった本に投票し、最多得票の「チャンプ本」を決めました。

本校の年生 山口さんも参加し、「あずかりやさん」(大山順子著)の紹介をしました。「あずかりやさん」への興味を駆り立てられる、素晴らしい紹介でした。



## 三国の文化資源探究 ～小野忠弘を語る～ 11.5

2年生文系の生徒が学校設定科目「三国の文化資源探究」の授業において、本校の美術教諭として人材の発掘育成に努めた、ジャンクアート(廃品美術)の鬼才 小野忠弘さんについて学習しました。教え子のアートディレクター戸田正寿氏と大湊神社の宮司の松村典尚氏をお招きして、先生の作品を題材に、当時の先生の様子、美術作品、三国の土地がもたらす影響等について対談形式で語っていただきました。その後、ONOメモリアルに移動し、三国高校現代刺子展「北前船が生んだ安島モッコ刺し」展を見学しました。



故 小野忠弘 画伯



## 三国の文化資源探究 ～弾き語りと朗読～ 11.12

坂井市三国町出身のシンガーソングライターであるヒナタカコさん（本校OG）と、朗読家/ナレーターの岡田健志さん（本校OB）の講演をお聞きしました。地域で活動する芸術家から現在の活動内容を伺うとともに本校の校歌の作詞者でもあり、三国町にもゆかりのある詩人、三好達治の詩を紹介していただき、地域が持つ力が作者や表現者に与える影響を学びました。

講演の最後に、ヒナさんのオリジナル曲「行かないで」の生演奏まで聞くことができ、生徒は大変感銘を受けていました。



## 吹奏楽部が駅コンサートを開催 11.21

吹奏楽部が駅コンサートを行いました。日頃お世話になっている三国駅で、ドラマ主題歌から昭和歌謡曲まで10曲余りを披露しました。同時に本校ボランティア委員会による花壇の植え替えも行われました。たくさんのご来場ありがとうございました。





中学生のみなさん、新年明けましておめでとうございます。皆さんにとって、今年が充実した一年になりますようお祈りします。寒い日が続きますが、体調管理に気をつけて学校生活を楽しみましょう。

## 「第5回高校生和食料理コンテスト」準優勝 12.8



「第5回高校生和食料理コンテスト」において、調理部に所属している2年生の松田さんが準グランプリに輝きました。

応募テーマは「進化系おにぎり」。幼い弟さんに喜んでもらえるように考えたおにぎりが、高評価を得ました。「弟に捧げるおにぎり」と題した作品は、栄養のバランスが良くなるように多くの食材を使用し、見た目が可愛く食べやすいように工夫されています。全国から400件を超える応募の中、準グランプリに輝いた松田さん おめでとうございます！

## 書道パフォーマンス 12.8

本校書道部が坂井西署からのご依頼で、坂井西警察署の武道場において「三国町の犯罪抑止と交通安全に向けた揮毫」（書道パフォーマンス）を披露しました。8人の部員がバンディの「怪獣の合唱」にのせて、地元三国町が安心安全なまちになって欲しいと願いを込めながら「祈願 安全安心みくに」と大書しました。



## 職業探究講座 12.10

PTA進路委員会主催の1, 2年生対象に職業探究講座が開催されました。12分野の講座が開催され1, 2年生が希望する2つの講座を第1部、第2部に分けて受講しました。実際の体験を交えながら、興味のある職業の話真剣に聞いていました。

生徒の感想には「調べても出てこない情報なども知れてすごくためになった」「美容師に憧れを抱いていたので体験できてすごく嬉しかった」「進路を考える上で非常に参考になった」「視野が広がった」などあり、将来の職業について考える機会になりました。



## 1年空き家活用プロジェクト 12.14

冬には珍しい青空の下、1年生が「総合的な探究の時間」で取り組んできた「空き家活用プロジェクト」を無事終えることが出来ました。

近隣の方に加え、午前中は南幼稚園や北小学校1年生のみなさん。午後は沢山の先生方や2・3年の生徒のみなさんに見学していただき、とても活気のある活動となりました。生徒にとって、得るもの多いイベントでした。ご参加くださった皆さま、本当にありがとうございました。



1年1組



1年2組



1年3組



1年4組

## マエストロ小松長生さん来校 12.21

三国町出身の世界的指揮者の小松長生さんが来校され、二日間にわたり吹奏楽部への熱血レッスンが行われました。丁寧なアドバイスをたくさんいただき、この後アンサンブルコンテストを控えた部員には大変勉強になるレッスンでした。





中学生のみなさん、1月中旬には思いがけない大雪になりましたね。寒い日が続きますが、学校生活を楽しみましょう。1・2月の学校の様子をお知らせします。

## みくに未来幼保園訪問 12.21

「子どもの発達と保育」受講生が制作した布おもちゃを、みくに未来幼保園の園児にプレゼントしました。制作したおもちゃは、「つながるゾウさん」と「さかなつりセット」です。

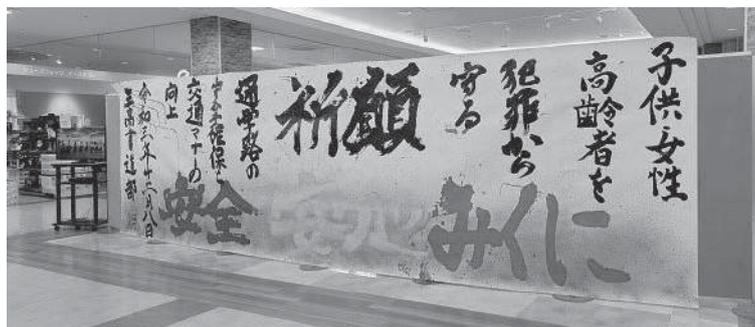
「つながるゾウさん」には、昨年から学習してきた地域文化の一つである「安島モッコ刺し」を施した「ラッキーゾウさん」も含まれています。地域の伝統文化にも触れてもらいながら園児のみなさんに楽しみながら遊んでもらえるよう工夫しました。「さかなつりセット」は、三国の海をイメージしたカラフルで様々な形をした魚を作りました。お片付けがしやすいように後ろには片づけポケットを付けるなど工夫しました。

園児のみなさんに直接会ってプレゼントすることができ、本当に嬉しかったです。



## 書道部揮毫イーザにて展示 1.7

本校書道部が12月8日に坂井西署からのご依頼で書道パフォーマンスをして書き上げた作品、「祈願 安全安心みくに」がショッピングセンターイーザ センターコートにて1月7日(金)～10(月)まで展示されました。



## 三高地域魅力化プロジェクト(2年)発表会 2.1

2年生は、これまでグループごとに地域の問題解決の提言づくりに取り組んできました。本日、その成果を坂井市議会議員や坂井市役所職員、大学関係者など外部の方々には発表しました。

これまで人口、地理、産業、観光地、特産品、雇用仕事、医療福祉、公共事業の8テーマに分かれ、坂井市の現状、課題を調べ、各自で解決策を考え(1学期)、似たテーマ同士でグループを結成し、グループとしてのアイデアをまとめてきました。

オンラインでの発表会となりましたが、こちらもZOOMのブレイクアウトルームを活用して、各教室がそれぞれの講師の方からご高評を受けることができる形にしました。最初は戸惑っていた生徒もすぐ慣れて、スムーズな発表ができました。大勢のみなさんの前での発表はできませんでしたが、新時代の発表を経験できた実り多い発表会となりました。



## ルールメイカー育成プロジェクト最終報告会 2.3

ルールメイカー育成プロジェクトは、校則をテーマにした対話を通じて、生徒の体性や思考力を高めることを目的に、本校生徒8人が半年間にわたって取り組んできた活動です。

本日の報告会では、プロジェクトに参加した生徒が先生方や保護者の代表の方を前に、校則に対する考えや調査結果の報告と、校則改正案の提案が行われました。その後の質疑応答では、保護者・教員から様々な質問や助言が出され、熱い協議があり、さらに対話が深まりました。生徒はもちろん、教員にとっても学びの多い会となりました。



## 雄島小学校に出前授業へ行きました！ 2.17

雄島小学校で「刺し子とSDGs」と題して家庭クラブの代表3名が出前授業を行いました。クイズを交えながらSDGsについて説明をしたところ、児童たちが活発に答えを発表してくれたので、授業が盛り上がりました。刺し子文化を通して安島の人々の「ものを大切にする」習慣を説明をしたときには、熱心に聞き入ってくれ嬉しかったです。



# 三国高校 地域探究同好会

令和2年6月、地域との協働活動をする生徒の組織として、三国町における空き家のひとつの「吉野家」を拠点とする地域探究同好会が設立されました。

地域探究同好会のメンバーを募集したところ、18名が集まり同好会スタートとなりました。

地域探究同好会は、地域にある文化資源や環境資源などを活用して地域活性化するプロジェクトを地域人材と協働で実施して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成を目指しています。



## 空き家清掃 2020/6/20

大家さんのご厚意で、「吉野家」を私たち三国高校の地域探究活動の拠点として利用させていただけることになりました。掃除道具を持ち寄って、しばらく使っていなかった空き家の清掃をしました。清掃後、今後の活動について打合せをし、空き家を利用して地域の活性化策を考えました。



## 「水鉄砲バトル」 in 海からのおくりもの 2020/8/22

雄島地区まちづくり協議会が毎年開催している「海からのおくりもの」というイベントに、運営スタッフとして参加し、初めて企画した「水鉄砲バトル」を実施しました。イベントの企画から準備や審判などの進行まで、学校生活ではなかなかできない経験ができました。



## 三国湊フェア 2020/10/25

三国町の本町商店会様のお誘いで、三国湊フェアに地域探究同好会、吹奏楽部、琴部、書道部、写真部、美術部が参加しました。秋の楽しい一日のお手伝いことができました。たくさんのお客さんに来ていただき、カフェも賑わいました。



## 三国祭山車曳き 2021/5/20

2年ぶりの山車巡行となった三国祭で、地域探究同好会を含む生徒19名が山車曳きに参加しました。神輿一基の渡御と山車人形4台の巡行と山車1台の展示のみで、規模を縮小しての開催でしたが、約6時間、雨の中を練り歩きました。感染防止策をしっかりと行い、コロナ禍の終息を願って、粛々と山車巡行をお手伝いしました。三国祭保存振興会の石丸博巳会長から感謝のお言葉をいただきました。

